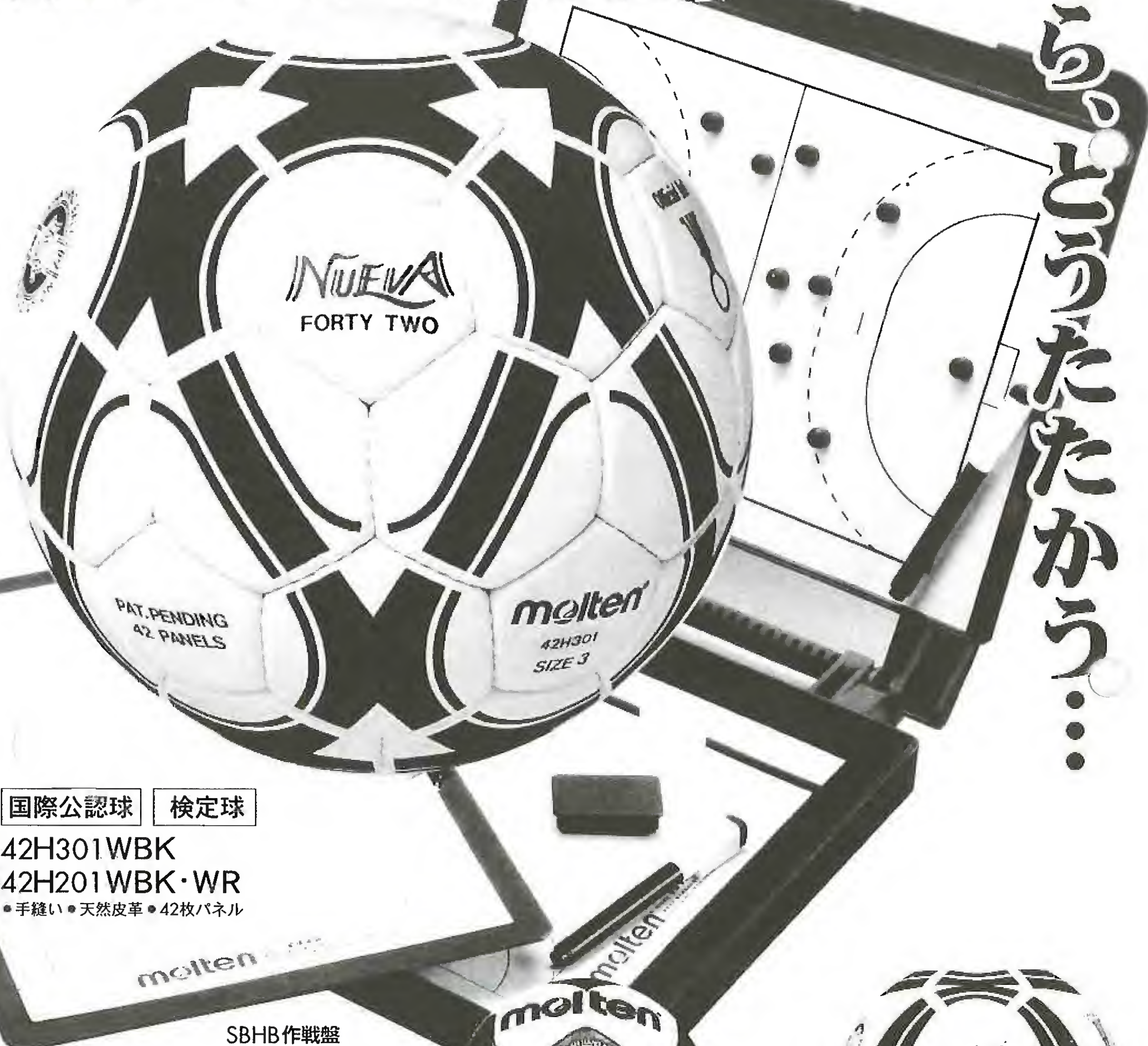
ヌエバ

NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう・・・



国際公認球 | 検定球

42H301WBK
42H201WBK・WR

●手縫い●天然皮革●42枚パネル

SBHB作戦盤

検定球

HSH1

●手縫い●天然皮革●1号球

小学校試合球

国際公認球 | 検定球

42H310WBK・42H210WBK/WR

●手縫い●天然皮革●42枚パネル

全国中学校大会試合球

巻頭言

ビーチハンドボールの普及、発展に取り組もう



（財）日本ハンドボール協会副会長　渡邊佳英

第６回ワールドゲームズ（WG）は、2001年８月、秋田市を中心に秋田県下で開かれるが、ビーチハンドボールが公開競技として実施される。

WGとは、国際ワールドゲームズ協会が主催する国際総合スポーツ大会（オリンピックでの実施競技を除く）で、４年に一度、夏季五輪の翌年に開催される。1981年、米国カルフォルニア州のサンタクララ市での第１回大会を皮切りに英国、ドイツ、オランダ、フィンランドで開かれ、今回初めてアジア・オセアニアで開催される。

秋田WGの開催期間は2001年（平成13年）８月16日から11日間、実施競技は公式競技がラグビー、ボディービル、トランポリンなど27、公開競技はビーチハンドボール（男子）相撲など５競技。ビーチハンドボールの会場地も秋田市の浜田浜と決まった。

WGの特徴は、オリンピックと違い参加選手は国の代表でなく、競技を統括する国際スポーツ連盟（IF）が選ぶ。国際ハンドボール連盟（IHF）も秋田WGへのビーチハンドボールの参加に意欲的だ。

一昨年秋、オランダでIHFの合同委員会があり出席したとき、E・ランス会長が「2001年WGの開催地が秋田に決まったが、実施競技にビーチハンドボールがリストアップされている。これはハンドボールが地球規模で普及、発展するために望ましいことだ。公式競技になればいいが…」と言っていた。

ビーチハンドボールが、まだ世界選手権を開いていないことから公開競技になったが、それでもIHFが選んだ世界５大陸の代表（開催国日本を加え６チーム参加）が秋田に集い妙技を発揮するのは楽しく喜ばしいことだ。最近、ブラジルが2001年１月にビーチハンドボールの世界選手権を開きたいとIHFに申し入れた。仮にブラジルでの世界大会が開催される場合、秋田WGの約半年前だからルールや審判、運営面などで整合性を持つようしていきたい。

日本でのビーチハンドボールは、一昨年、昨年とも８月に千葉県・富浦町原岡海岸で全国ビーチハンドボール・フェスティバル（富浦さざなみ大会）が開かれた。今年も同地で５月に関東地区大会、８月には第３回全国フェスティバルを開く。日本ハンドボール協会内でも組織化され、全国各地でのチーム増を目指している。この競技はほとんど設備もいらず、少人数でもできる。誰でも気軽に取り組めるばかりかハンドボール競技の強化にも役立つ。日本協会としても普及、発展に努めたいと思う。

★シドニーオリンピックアジア予選の熊本開催決定

2000年シドニーオリンピック男女アジア予選の熊本開催が正式に決定した。大会期間は来年1月24日から31日までの8日間。会場は男子が熊本市の県立総合体育館と熊本市総合体育館、女子は山鹿市総合体育館と下益城郡松橋町総合体育文化センターの予定。参加国や試合方式などは未定。

シドニーオリンピックの代表枠は開催地のオーストラリアを除く男子が11カ国、女子が9カ国。世界選手権(男子：6月、エジプト、女子：11月、ノルウェー）の男子上位7カ国、女子上位5カ国は出場が自動的に決まり、残りは4大陸予選で争われ、アジア地区からも男女1カ国が出場権を獲得する。

男子はソウル大会以来、女子はモントリオール大会以来のオリンピック出場を目指す。

★全日本男子監督に田口隆氏(本田技研)決まる「目標はシドニーオリンピックベスト8」

前任の蒲生男子ナショナルチーム監督の後任として田口隆氏（本田技研監督）の就任が3月15日正式に発表された。田口氏は、1961年生まれ、岐阜県出身で岐阜市立長森中学校、県立岐阜商業高校、日本大学を経て本田技研工業株式会社に入社した。プレーヤーとして公式国際試合に108試合出場し、世界選手権(チェコ)、オリンピック(ソウル)、アジア大会(ソウル：3位、北京：2位)に参加した。1991年から1997年までナショナルチーム・コーチを務めた。1992年にはJOC在外研修員としてドイツに1年間留学した。1997年7月から本田技研ハンドボール部監督に就任する。

記者発表で示された活動方針によると、目標はシドニーオリンピックベスト8。強化の具体的な考え方を、基礎体力・技術力をさらに向上させ応用体力・技術力に結びつけ戦術・戦略とマッチさせることとし、プレーの理解度を向上させることとして示した。さらに強化施策とし、①体力アップ②オフェンス／デイフェンスの基礎・応用技術の習得③個人・チームの目標に対し継続し努力できる選手作りだと提示された。

★平成10年度日本ハンドボール協会表彰者（敬称略、順不同）

青森	斉藤	浩
福島	遠藤	道雄
埼玉	結城	昭夫
山梨	小松	進
岐阜	林	邦隆
奈良	高橋	俊二
広島	荒谷	拓三
愛媛	渡部	文也
鹿児島	蒲山	尚志
実連	繝津	行雄
教職員	審	愛玲
学連	山崎	剛
高体連	千野	恒夫
中体連	光山	巌
日本協会	岡前	義春
日本協会	竹内	史衛

★平成11、12年度日本協会役員人事決まる

平成11年2月20日、評議員会が開催され、任期満了に伴う、新理事・監事の選出が行われた。その結果、理事、監事が再任された。加盟団体選出理事候補については各団体から推薦され理事役職については、新理事会において決定される。

★1999年女子Jr世界選手権大会（中国）に小笠原・浜田国際審判員がノミネート

1999年8月1日から15日まで中国で行われる第12回女子Jr世界選手権大会のレフェリーに小笠原久郎（北海道）・浜田浩和（東京）国際審判員ペアが、先に行われたIHF・PRCの会合で指名された。両氏は熊本の男子世界選手権大会に控えレフェリーとしてノミネートされたが、実際に試合は担当できなかった。今回がIHF主催世界大会への実質的なデビューとなる。

尚、大会は全日本ジュニアナショナルチームが出場権を獲得している。

その他、ノミネートされたレフェリーの詳細は次号に掲載する。

＊IHF主催大会とは男女各オリンピック、世界選手権大会、Jr世界選手権大会を指す。

平成11年度事業計画

（財）日本ハンドボール協会

◆総務委員会

【基本方針】

日本ハンドボール協会の円滑な運営のために、諸会議の設定運営、寄付行為を初めとする諸規程の整備を進める。また、全員参加の理念の基に始められる「がんばれハンドボール10万人会」の推進、会員募集の施策を展開する。

【重点施策】

(1) 寄付行為を初めとする諸規程整備
(2)「がんばれハンドボール10万人会」の推進
(3) 日本協会の全委員会を集結した全体研修会、総合同委員会の開催計画

◆企画委員会

【基本方針】

(1) 中・長期スケジュールの調整と確立
(2) シドニーオリンピックアジア予選・熊本大会開催に伴う企画調整
(3) 協賛募集の開始と拡大
(4)「JHA21世紀ビジョン」の立案

【重点施策】

(1) 中・長期スケジュールの調整とそれに伴う企画
(2) シドニーオリンピックアジア予選に伴う企画の推進
(3) 協賛募集の開始と拡大
(4)「JHA21世紀ビジョン」の立案

◆広報委員会

【基本方針】

(1) メディア媒体への積極的アプローチ（テレビ・ラジオ・新聞）
(2) 協賛活動の拡大と実施・登録制度の推進・徹底（協賛企業・サポーター会員）
(3) ハンドボール文化の高揚（全員参加の啓蒙活動）
(4) ナショナルチームのPR（シドニー五輪アジア予選）
(5) インターネットによる情報システムの確立

【重点施策】

(1) メディアとの定期懇談会
(2) プレスリリース・記者発表　機会の20％アップ
(3) 協賛募集活動の開始と拡大
(4) 登録制度開始に伴う徹底・広報
(5) ハンドボール全員参加の啓蒙活動の実施
(6) インターネットを活用した情報発信の充実

◆財務委員会

【基本方針】

(1) 財務体質の安定化
　幅広い収入源の確保
(2) 事業収入の拡大
(3) 迅速、正確な会計処理

【重点施策】

(1) 登録金・賛助金
(2) 検定業者見直し、協会グッズ販売の検討
(3) 会計パソコン化の定着
(4) 会計事務処理のスピード、正確性の向上

◆国際委員会

【基本方針】

(1) シドニーオリンピックアジア予選、男女同時日本開催サポート
　日本のハンドボール界の夢であり、メジャーになるためには、男女がオリンピックに出場し上位入賞する事であり、そのためには中東の影響を受けない日本開催が必須条件である。
(2) アジアハンドボール連盟の正常化
　AHF会長・事務局が中東にあり、中東のためのAHFになっている。これは、定義、規程等ルールが明確になっていないため不満・不足の原因によるこれを正常化していく。
(3) 国際交流の体制づくり

【重点施策】

(1) シドニーオリンピック予選、男女同時開催がほぼ決定。
　実施に向けAHF・IHFに向け働きかけを実施する。
(2) AHF正常化に向け
　①定義・規程の不備・不足を見直しIHF規程に準じ改訂と追加
　AHF・ワーキンググループに参加
　②東アジア諸国との結束
　女子は、アジア連盟を東アジアへの提案
(3) 国際交流の体制づくり
　ドイツを中心として拠点国、チームをつくり、選手、コーチ、レフェリーの送り込み体制確立に向け実行計画をつくり進める。

◆機関誌委員会

【基本方針】

(1) 平成11年度は、全員参加でのハンドボール文化構築の為の登録制度がスタートする。
　この全員参加の理念を基に、制度の啓蒙、状況報告を目指していく。
　さらに、各方面からのニュースも積極的に取り入れ機関誌に於いても全員参加の理念を実施していくことを目指す。
　また、機関誌は平成11年度9月号で400号を迎える為、記念企画を計画する。

【重点施策】

(1) 基本方針にのっとり新企画をスタートさせる。
　①OB登場コーナー　②技術コーナー
(2) 継続企画として
　①寄稿募集　②列島縦断

◆競技運営委員会

【基本方針】

(1) 日本協会主催・共催の大会管理・運営にあたる。
　（シドニーオリンピックアジア予選会の運営他）
(2) 競技運営に関するマニュアルにより、協会主催・共催大会の連携を図る。
(3) 競技運営に関する規程の整備を図る。
(4) 登録制度の充実を図り、競技運営に反映させる。
(5) 競技用具検定制度を充実させる。

【重点施策】

(1) 競技運営に関するマニュアルにより、一層の内容の充実を図る。
(2) 継続した立会人制度の模索
(3) 登録制度の充実による登録人口の増加を図る。
(4) 競技用具の使用の実態の把握

(5) ビーチハンドのボールを中心とした競技用具の開発

■全国大会の開催
◎第40回全日本実業団大会
男子・女子 4／22〜4／25 大阪府：大阪市立中央体育館他
◎第18回全国クラブ選手権大会
(東日本大会) 7／23〜7／25 福島県：本宮総合体育館
(西日本大会) 7／16〜7／18 滋賀県：長浜ドーム
◎第12回小学生大会
7／30〜8／1 京都府：田辺中央体育館
◎第6回東日本小学生大会
7／予定　山形県：東根市民体育館
◎第6回西日本小学生ハンドボール交流会
2／予定　岡山県
◎第50回全国高校選手権大会
8／1〜8／7 岩田県：アイスアリーナ
◎ビーチハンドボール
8／6〜8／8 千葉県：富浦町原岡海岸
◎第40回全日本教職員選手権大会
8／9〜8／13 山口県：徳山市総合体育館
◎第25回全国高専選手権大会
8／6〜8／8 高知県：春野総合公園体育館
◎第27回全国中学校大会
8／22〜8／25 長野県：Mウエーブ
◎第4回ジャパンオープントーナメント
男子・女子 8／7〜8／10 富山県：氷見市総合体育館他
◎第54回国民体育大会
10／24〜10／28 熊本県：山鹿市総合体育館他
◎第42回男子・女子第35回全日本学生選手権大会
11／12〜11／17 北海道：函館市民体育館他
◎第51回全日本総合選手権大会
12／22〜12／25 愛知県
◎第8回JOCジュニアオリンピック大会
12／24〜12／26 大阪府：家原大池体育館
◎第24回日本リーグ
6／26〜3／12 各地
◎第22回日本リーグプレイオフ
3／17〜3／20 東京都
◎全日本実業団チャレンジ'2000
2／11〜2／13 愛知県：愛知県体育館他
◎第23回全国高校選抜大会
3／24〜3／28 大阪府：大阪市立中央体育館

■関連国内大会
◎東日本学生選手権大会
8／10〜8／14 石川県：金沢市総合体育館他
◎西日本学生選手権大会
8／4〜8／8 愛知県：露橋スポーツセンター他
◎第54回国体ブロック大会
8／上旬〜 各地

■国際大会
◎'99ジャパンカップ
7／予定　広島県
◎第12回女子ジュニア世界選手権大会
8／1〜8／15 中国
◎第14回女子世界選手権大会
11／28〜12／12 ノルウェー
◎シドニーオリンピックアジア予選
1／24〜1／31 日本：熊本県
◎第7回日・韓・中ジュニア交流競技大会
8／25〜8／30 広島県
◎第3回日・韓スポーツ交流（派遣・受入）
8／予定　韓国

◆普及委員会

【基本方針】
(1) ワールドゲームズ2001に向けて
(2) スポーツ少年団からマスターズまで生涯ハンドボール体系の確立
(3) ジュニア（小学生を中心として）チーム育成
・郡市町村ハンドボール協会の設立
・市町村協会でのスポーツ教室開催・スポーツクラブの育成
・チーム創設マニュアルの作成
(4) 小学校の教科ハンドボールの普及施策
(5) 中学生委員会関係
・全チーム登録達成
(6) ビーチハンドボールの普及
・全国大会の開催
(7) マスターハンドボールの普及
・全国大会の日本協会主催
(8) 車椅子ハンドボール等の支援

【重点施策】
(1) 小学校教科ハンドボールの普及と次期指導要領の改訂に向けて、
研究事業の促進
指導マニュアル作成
実践研究発表の開催
講習会の開催
(2) 生涯ハンドボールを行える基盤の確立
都道府県協会・市町村協会におけるスポーツ教室の開催
都道府県協会・市町村協会における小学生を含むハンドボールクラブの設立
(3) ビーチハンドボールの全国大会の成功
普及、レフェリーの育成
(4) ワールドゲームズの組織体制確立

◆指導委員会

【基本方針】
(1) 指導者の育成
①コーチレフェリーシンポジウムの開催
②長期的展望にたった指導者育成計画の作成
③指導者組織の整備
④研修制度の確立
⑤大学におけるC級コーチ専門教科認定コースの設置について
⑥都道府県におけるスポーツ（ハンドボール）指導員の養成
(2) 公認コーチ資格の義務付け制度について
(3) ビデオ教材の開発
(4) 海外派遣による研修と情報収集
(5) 全国指導委員会の開催
(6) 指導体制の一貫方策

【重点施策】
(1) 指導者の養成システムの開発
・公認コーチ・スポーツ指導員養成の長期計画
・指導者の公認資格義務付けの計画
(2) スポーツ指導員養成講習会促進
(3) 指導組織の整備
・指導担当者の連携
日本協会指導専門委員会－ブロック委員長－都道府県担当者
(4) 研修制度の確立
・指導者の資質向上のための研修制度及び義務研修制度
(5) 平成11年度コーチレフェリーシンポジウムの開催
・公認指導者の連携、連帯
(6) 指導体制の一貫化方策の検討

◆審判委員会

【基本方針】
(1) 上級審判員の審査
(2) 審判員の資質向上
(3) 審判委員会の運営の円滑化

【重点施策】
(1) A級審査モデルにトップレベル大会を充当する。

日本リーグに相当する実業団選手権大会を吹笛させ、真の実力を見る。

(2) JHAレフェリーコースを継続し、好素材の早期発見に努める。

コース受講者の中で、語学・吹笛・容姿等総合的に好材を見出し、英才教育の対象とする。

(3) 各大会に集まるレフェリーを観察し、指導の範囲を拡大する。

2大会の評価でなく、評価大会を増やし、これを基に全日本総合選手権大会の審判団を編成する。

(4) 国際・トップレフェリー・トレーナーとの合同研修会

ナショナルチームの合宿に合わせて、総合研修会を持ち研修研究を行う。

(5) 審判委員の海外研修に努める。

海外で開かれるトレーニングマッチ、ナショナルチームへの帯同を通して海外研修に努める。

(6) 審判委員会の円滑化

合同委員会・委員長会議・小委員会を通して、処理の迅速化と円滑化をはかる。

(7) その他

①IHFレフェリーコース日本開催を準備する。

アジアの他国での開催は、現状では余り期待できない。日本開催を目指して経費捻出・モデル大会等の検討を開始する。

②日本リーグ会場審判長会議の実施

審判長の任務の確認、レフェリー評価の視点の統一化、懲罰規程の確認を行う。

◆強化委員会

【基本方針】
(1) 男女ナショナルチームがシドニーオリンピック大会への出場権を獲得する為の強化施策を強力に推進する。
(2) 第14回女子世界選手権大会(ノルウェー)5位以内の入賞を果たすための強化施策を実施する。
(3) 第12回女子ジュニア世界選手権大会(中国)の上位入賞(目標8位以上)を果たすための強化施策を実施する。
(4) 各ナショナルチームの一貫指導体制及び指導内容の充実を図る。

【重点施策】
(1) 平成11年度各ナショナルチーム強化計画に基づき計画的に強化計画を実施する。
(2) 強化事業の一環として国際大会(国内・外)への出場、海外遠征及び国内強化合宿などを計画的に実施する。
(3) 一貫指導体制及び指導内容の充実を図る。
①各ナショナルチームスタッフ研修会の開催
②全国9ブロック別指導会の実施
③U－23以下ナショナル選手の個別指導を強化する。
(4) スポーツ医科学委員会との連携強化

スポーツ医科学委員会関係事業計画による諸施策の実施

(5) 強化関連部門との緊密な連携を図る。

◆スポーツ医・科学委員会

【基本方針】
※シドニーオリンピック大会出場資格を取得する為、男女ナショナル選手の競技力としての体力、メンタル及びゲーム分析能力の向上を図る。
(1) スポーツ医科学
①体力トレーニング　②栄養と体脂肪　③マウスガード　④メンタルマネージメント　⑤選手手帳
(2) 特別研究
①メディカルチェック及び体力測定
②ドーピングコントロール及びアンチドーピング
③ドクター、トレーナーのメディカルサポート

【重点施策】
※JOC、日本体育協会とのプロジェクト参加項目に重点指向する。
(1) スポーツ医科学研究

①体力トレーニング：ハンドボール選手の競技力に直結した測定項目の継続測定と各選手手帳の作成

②栄養と体脂肪、骨密度からみた日常の個人管理

③マウスガードの実用タイプを試用し、安全度と咬合力を高める。

④メンタルマネージメントの継続調査を実施する。

⑤ゲーム分析(シュートを主体に)

(2) 特別研究

①メディカルチェック、体力測定：男女強化指定選手のみでなくジュニア選手にも適用実施する。

②ドーピングコントロール：平成10年度に引き続き日本リーグ時に実施するとともに全日本総合でも試行する。アンチドーピングとしては、海外派遣前講習会を実施する。

③ドクター、トレーナーの帯同は各種別チームには同グループの合宿・海外競技会に派遣する。

◆日本リーグ委員会

【基本方針】
(1) 日本リーグ運営機構のスリム化への再構築
①日本リーグ運営経費、プレイオフ経費20％削減
②運営会議の効率的開催
③変革の波に対応出来る機構づくり
(2) 日本リーグ部長会議の強力支援体制の確立
(3) 企業スポーツとしての日本リーグの現状分析と未来指向
(4) 地域密着化の一層の努力とチームの活動責任
(5) 日本ナショナルチームの強化支援(シドニー予選を最大目標)
(6) メジャー化へのファンの拡大(継続事業)
(7) スター選手育成と広報活動の積極的展開

【重点施策】
(1) 日本リーグ参加チームの部活動の縮小化、休部の防止対策
(2) 女子リーグ統合元年(12チーム)の成功へPR活動
(3) 報道センター(NTT・インターネット)のスピード化
経費削減の検討
(4) 規程、プログラムハンドブック(運営マニュアル)の整備
(5) スケジュールの急変に対応出来る体制の確立
(6) 審判(リーグ担当)の能力査定とレベルアップ
(7) 会場審判の役務基準の明確化
(8) 運営委員会の体質改善とクリエイティブな活動をする研修会の実施

平成11年度事務責任者会議　議事録

【期　日】平成11年3月7日（日）
【時　間】13時から18時40分
【場　所】東京青山メトロ会館
【出席者】
清水勝(北海道)、三浦博英(青森)、岡市武(岩手)、今野正志(宮城)、最上大(福島)、長谷川剛(茨城)、仲江川久美子(栃木)、新井嘉人(群馬)、五味崇恵(千葉)、井田一博(東京)、定森秀光、細井義彦(神奈川)、新谷幸司(山梨)、竹内佳明(長野)、小林智隆(新潟)、幸塚孝行(富山、兼北信越)、川原繁樹(石川)、近葉帝善(福井)、帯金充利(静岡)、村木啓作(愛知)、中森一郎(三重)、今井田康雄(岐阜、兼東海)、金子又広(滋賀)、吉田博二(京都)、源野幸次(大阪)、丸茂康子(兵庫)、野田善行(和歌山)、都志見朋子(島根、兼中国)、原井進(山口)、佐藤勝美(徳島)、馬場文彦(香川)、上野裕司(愛媛)、和佐野健吾(福岡)、久保田秀光(佐賀)、荒木雅浩(熊本)、一万田尚登(大分)、海江田弘(鹿児島)、東江正作(沖縄)、福地賢介、兼子真(学連)、比留間康(高体連)、佐分正典(関東) 41名
［日本協会］市原則之、村松誠、川上憲太、殿水幸雄、喜井美雄、大西武三、江成元伸
［事務局］ 斎藤博、本多正樹、渡邊直美

事務責任者会議は平成7年より行われ、今年度で4回目の開催となり都道府県協会、ブロック連盟、各種連盟より41名の事務担当責任者が出席された。

会議に先立ち市原専務理事より各協会の事務責任者の日頃の労に対する感謝と今後引き続き日本協会とのパイプ役としてコミュニケーションを図って欲しいと挨拶があった。併せて、平成11年度より導入される新会員登録制度についての説明があり、理解と協力の要請があり本題に入った。

《議事》

(1) 新会員登録制度について

①「がんばれハンドボール10万人会」募集要項

・殿水常務理事より協会の財政について説明があり、財政面での協力を仰いだ。

・村松常務理事より募集方法についての説明があった。

・現在募集パンフレットの作成中で、3月一杯にはでき上がる予定なので4月上旬に各都道府県配布予定である。これを活用して、ファミリー会員、グランド会員の募集を行ってほしい。各都道府県から募集数の概数を出してほしいとの希望があったので別紙にて提示する。算定基準は、現在の登録人数に日本リーグのある都道府県は2分の1、ない都道府県は4分の1を乗じた数である。

・募集パンフレットを配布する前に加盟団体№を記入しておくこと。番号は別紙参照。これは還元金の送付先を明確にするために必要である。「がんばれ……」の分類である「1」は予め印刷しておく。

・10万人会は自動引き落としで、次年度継続は本人に直接郵送にて引き落とし通知をして、引き落としをする。

②役員登録用紙記入方法

・村松常務理事より記入方法についての説明があった。

・役員登録記入用紙記入要領に従って名簿を作成してほしい。

・役員登録の締め切りは5月20日。

・最上額の役職が、その団体にない場合は登録金を「0円」とする。

・登録用紙のデータをFDでも配布するので事務手続き上、できるだけFDで提出してほしい。FDで提出する場合にもプリントアウトしたものを併せて提出してほしい。

・役員記入の順序は、日本協会、都道府県協会、全国連盟の順で記入する。

・加盟団体とは、寄付行為上の加盟団体を指すもので、ブロック協会は除外。

③審判登録費自動引き落とし申請書の記入要項

・国際、A、B、C、Dなど全ての級で登録するので、都道府県の全ての審判に振り替え用紙を配布してほしい。

・今年度の用紙回収締め切りは4月26日。

・自動引き落としを希望しない場合は、毎年の郵便振り込みも可能とする。ただし、その際の振込手数料は各人持ちとする。その際、通信欄に「審判登録」と明記すること。

・定年50才になる年を予め記入しておいてもらい、自動的に引き落としをストップする。

・毎年の引き落とし確認しないが、連絡が有れば引き落としを止める。

(2) 平成11年度チーム・選手登録について

・江成常務理事より登録の概要について説明があった。

・兼子競技部委員より登録の具体的方法について説明があった。

・'99登録規程に従って登録してほしい。

・登録用紙は発送済みただし、大学の分は各ブロック学連より各大学に配布する。

・登録の締め切りは5月20日。

・従来通り、登録終了後登録番号を各都道府県協会に伝える。

・高校で男女両チームの監督を行っている場合は1名分の登録でよい。

・高校、中学など兼任の場合はそれぞれで登録する。

・国体の登録は別途定める。

・外国人選手を登録する際には、移籍等の確認を行ってほしい。又、所属選手が外国に出る場合にも移籍確認が必要である。

・登録証は大会時には必ず携帯してほしい。全国大会に於いては、会議で登録証のチェックを行う。

・登録証は高校生が黄緑色、その他が紫色である。

・昨年度まで、選手証は登録終了後日本協会より発行していたが、大会時期との関係で登録が出た時点で、必要枚数を各都道府県協会で各チームに発行してほしい。追加登録の場合も同様である。

・登録証には必ず写真を貼っておくこと。尚、登録証の取扱には十分注意するよう伝えてほしい。

・登録用紙は正を1部作り、その他2部はコピーでも良い。その際には両面コピーで対応してほしい。

・今年度より、コピー対応を可能とした関係上全ての分野で黒印刷とし、色分けは行わなかった。サイズは従来通りB4とした。

・代表者印を必ず押してほしい。代表者とは指導代表者であり、学校の場合、校長でなくとも良い。
・チーム役員、選手の登録番号は従来通りのものを用いてほしい。
・チーム役員名称は、大会毎に変えてもかまわない。ただし、チーム役員として登録されていなければベンチに入ることはできない。
・学校の場合、マネージャーも登録すること。ただし登録金は、選手と同額とする。

(3) スポーツ指導者養成講習会について

・大西常務理事よりスポーツ指導者養成について説明があった。
・2007年国体からはベンチ役員中1名は必ず有資格者でなければならない。
・各都道府県協会においてはスポーツ指導員養成事業を進めていただきたい。
・小学生の新指導要領にハンドボールが導入されたので、普及に努めてほしい。
・平成11年度コーチ・レフェリーシンポジウムは平成12年3月10日～12日の予定で計画を進めている。
・ビーチハンドボールの第1回全国大会を平成11年度に開催する。

(4) 国内、国際事業日程について

・'99年国内、国外大会の日程が示された。

(5) その他

・国体のユニホームでは都道府県名を必ず胸に入れること。チーム名を胸に入れてはいけない。ただし、チーム名を袖に入れることは可能である。
・サンクスの協賛について説明がなされた。
・「60周年記念史」を都道府県単位で購入していただきたい。できる限り、10冊単位でお願いしたい。

《質疑応答》

(1) 新会員登録制度について

①「がんばれハンドボール10万人会」募集要項

・募集の根拠は評議員会などの手続きを踏んで承認済みである。
・各都道府県の募集の目安の数はあくまで目安であって、できるだけ多くの方の協力を仰ぎたい。ハンドボール関係者ばかりでなく、一般の人にも呼びかけてほしい。
・街頭、駅やファミリーレストランに置くことも考えられるが、今回はまず第一歩でありバラマキ型より都道府県協会を通して呼びかけてほしい。
・ファミリー会員にはチケットばかりでなく大会日程やハンドボール情報等のパンフレットを送付する方向で検討する。
・都道府県協会には還元金と共に会員の名簿を送付する。還元金の送付は費用の関係で年1回か2回にし、年度末に行う。
・還元金の一件当たり500円は、手続き料、会員証など等を考え精一杯である。
・募集は年間を通じて行う。
・10万人の根拠は、日体協などでのメジャースポーツの目安であり、メディアでも同様の考えを持っているためである。
・パンフレットに日本協会のホームページアドレスとEメールアドレスを入れてほしい。
・各都道府県で特別会員登録者を募ってほしい。ただし会長には限定しない。

②役員登録用紙記入方法

・登録の有無で権利が発生しない等の混乱が起きないよう、機関誌等で通達を出したり、情報の提供を行っていきたい。この一年は試行錯誤をし、通達等は何回も繰り返し行う。
・各種登録を同時に行う等早急とも考えられるが、仲間作りのチャンスとして理解し、活用してほしい。
・協会と現場に意識のずれがあるかもしれないので、これからも話し合いの機会を持ち理解がし合えるようにしていきたい。協会でも集めたお金を、都道府県にいかにして配布しようか等も考えているので、只吸い取られるだけとは考えないでほしい。
・役員Gについては、学校の関係で無理にお願いしていて登録金は集めづらいであろうが、主旨を理解していただき協力をお願いしたい。
・会員バッチは初年度のみ配布や、数年度毎デザインを変えるなど等を含めて今後検討していきたい。

③審判登録費自動引き落とし申請書の記入要項

・所属審判を各都道府県で把握する目的で、県協会一括登録を希望する場合は個別に確認、対応する。


挨拶に立った、市原専務理事

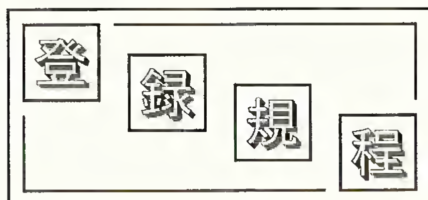
・今年度の用紙回収が4月26日締め切りである。経費の関係で一括処理を行いたいので期日を厳守してもらいたい。引き落とし終了後、都道府県協会には引き落としリストを送付する。

(2) 平成11年度チーム・選手登録について

・監督兼任選手の場合は両方で登録を行う。
・個人番号は永久番号であるので、前年度登録していない場合でも前の番号を用いてほしい。不明の場合は、名前と生年月日で確認できるので協会に問い合わせてほしい。
・高校、中学校の用紙には来年度より校長名を記入する欄を設ける。
・中学校の登録時期については各学校の関係で個別に対応することも可能である。できるならば、仮入部時点で一人でも多くの生徒に登録してもらえるよう対応してもらいたい。
・今年度、中学校の顧問から新たに役員登録料を徴収することになるが、各ブロック中体連までは伝わっているが、各学校までは伝わっていないかもしれないので都道府県協会からも伝えてほしい。金銭的なこともあるが、理解してもらえるよう努力をお願いしたい。
・役員登録なしでも受理するが、できるだけ書いてもらいたい。どうしても書いてもらえないのであれば、仕方がない。
・中体連で役員登録に変わってのチーム登録については、次年度までに検討する。

次年度第5回事務責任者会議の開催について2月27日（日）にすることを確認して閉会した。

財団法人日本ハンドボール協会 '99 登録規程・懲罰規程



（目的）
第1条　本規程は、財団法人日本ハンドボール協会（以下「本協会」という）の加盟団体である、各都道府県のハンドボール競技を統括する団体（以下「各都道府県協会」という）、及び、各ハンドボール連盟（以下「各連盟」という）を構成するチーム、及び、個人の登録（以下「登録」という）について定める。

（義務）
第2条　本協会の各都道府県協会、及び、各連盟を構成するチームは、この規程の定めるところにより、そのチーム、及び、個人を本協会に登録しなければならない。
　2 ただし、中学校、中学生、及び小学生については、別に定める。

（区分）
第3条　本規程によるチームの区分、個人は、次のものとする。
チーム
　一般L－日本リーグ、及び、すべての大会に参加資格がある。
　一般A－日本リーグ以外のすべての大会に参加資格がある。
　リージョナル－都道府県協会主催の大会にのみ参加できる。
　大学
　高等専門学校
　高等学校
　中学校、及び、中学生
　小学生
個人
　本規程において個人とは、本協会、各都道府県協会、または、各連盟が主催、共催する大会に、競技者として参加する者をいう。
　個人とは、選手、及び、チーム役員を指す。
　個人は、チームに所属していなければならない。ただし、本規程による個人登録がなされていなくても、本協会は、日本代表チームの選手として（ジュニアを含む）推薦、指名することができる。

（登録の手続き）
第4条　登録を申請しようとする者は、本協会の所定の登録用紙3部に必要事項を記入し、1部を控えとして手元に保管し、2部に所定の登録料を添えて、チームが所在する各都道府県協会に、指定する期日までに提出しなければならない。
　各都道府県協会は、各チームより提出された登録用紙を確認、捺印の上、1部を控えとして手元に保管し、1部を一括して、登録金、及び、別に定められた納付金と共に、本協会に納入しなければならない。

（登録）
第5条　本協会は、第4条の申請があったとき、当該チーム、及び、当該申請者を、チーム、及び、個人として登録するものとする。
　2 原則として、登録年度内における、チーム名の変更は認めない。

（重複登録について）
第6条　個人の登録の選手は、1つのチームまでとする。
　チーム役員は、複数のチームに登録できる。ただし、登録料はそれぞれにかかるものとする。チーム役員の大会エントリーについては別に定める。

（国民体育大会、その他、特別の選抜チームの登録）
第7条　国民体育大会、その他、特別の選抜チームの登録については、別に定める。

（外国人の登録）
第8条　チームは、外国籍の外国人を登録することができる。登録申請時に外国協会に登録していた個人（選手）は、所定の手続きとして国際ハンドボール連盟、または、アジアハンドボール連盟発行の移籍証明書を添付して登録しなければならない。

（申請の期間）
第9条　登録の申請は、毎年4月1日から5月31日までの間に行うものとする。

（有効期間）
第10条　登録の有効期間は、毎年4月1日から翌年の3月31日までとする。

（追加登録）
第11条　登録締め切り後のチーム、及び、個人の登録は、次の場合に限り、認められる。
　1 チームを新設したとき。
　いつでも申請手続きをし、登録することができる。
　2 個人の追加登録するとき
　個人の追加は、申請があれば、審査の上、随時登録ができる。

（登録の拒否及び取り消し）
第12条　チーム、及び、個人登録申請書に虚偽の記述があった場合、または、申請者に、本協会に登録する者としての品位を汚すような行為、その他がある場合は、調停・裁定委員会で審議の上、登録を否定すること、あるいは、取り消すことができる。

（登録金）
第13条　本協会に係わる登録金は、別に定める。

（大会の参加資格）
第14条　本協会に登録していない者は、本協会、各都道府県協会、または、各連盟が主催、共催する大会に、選手、または、チーム役員として参加することができない。
　ただし、個人で指名された日本代表チームの選手（ジュニアを含む）として、試合に参加するときは、この限りではない。

（登録抹消）
第15条　登録したチーム、及び、個人が、年度内にその活動を停止したとき

は、当該チームの代表者が、所定の用紙により各都道府県協会を経由して、速やかに、本協会に該当事項の登録抹消の手続きをとらなければならない。
本協会が、登録抹消届けを受理した日をもって、登録の効力を失う。

（移籍）

第16条　個人（選手）は、登録したチームから別の登録チーム、あるいは、新たに登録しようとするチームに移籍することができる。

（移籍証明書の発行）

第17条　本協会に登録した個人（選手）が、外国のチームに入籍しようとするとき、本協会は、本人の申請により、所定の移籍証明書を発行することができる。ただし、当該者が、日本代表選手として選抜されるときは、日本代表チームに参加しなければならない義務を負う。

（登録証）

第18条　本協会に登録した個人に、登録証を発行する。各大会代表者会議において、登録証によって資格を審査する。

2 各試合は登録証により個人を特定する。

（調停・裁定）

第19条　本規程に関する紛争、または、解釈、運用に疑義が生じた場合は、調停・裁定委員会で審議の上、調停、裁定するものとする。

2 調停・裁定委員会については、別に定める。

（罰則）

第20条　本規程に違反した場合は、懲罰委員会に諮り、懲罰する。

（改正）

第21条　本規程の改正は、本協会寄付行為第26条における、常務理事会の審議を経て、理事会で決定する。

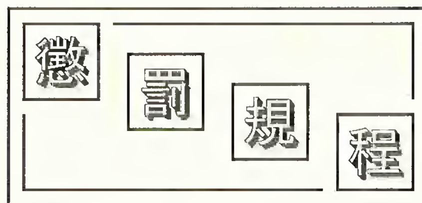
附則

この規程は、平成6年2月12日から施行する。

この規程は、平成7年2月4日から一部改正して施行する。

この規程は、平成8年4月1日から一部改正して施行する。

この規程は、平成11年4月1日から一部改正して施行する。



（目的）

第1条　ハンドボールの正しい発展のために各種の懲罰を定める。

（懲罰委員会）

第2条　財団法人日本ハンドボール協会（以下「本協会」という）に懲罰委員会を置く。

2 懲罰委員会は、会長の諮問機関として、ハンドボール関係者の違反行為並びに提訴された諸問題に対して、調査、検討し、理事会提出の原案を作成する。

3 懲罰に関する決定は理事会が行う。

（委員）

第3条　懲罰委員会の委員はその必要に応じて会長が任命する。

（組織に対する違反）

第4条　組織（下部組織を含む）において、脱退、除名、その他違反行為による離脱の場合は、本協会組織内のいかなる組織からも除外される。
離脱者がその組織に復帰を認められた場合は、その限りではない。

（登録に関する違反）

第5条　登録に関する違反があった場合には、懲罰する。懲罰の対象は当事者およびチームの責任者とする。

（棄権及び重複登録について）

第6条　本協会主催・共催の大会に一旦申し込み、抽せん後の棄権は認めない。棄権したチームを懲罰する。

2 上記チームの推薦母体の責任者（本協会担当理事、ブロック理事、加盟団体責任者、各都道府県責任者等）については別に懲罰する。

3 懲罰委員会において審議した結果、やむを得ないと判断された場合はこの限りでない。

4 同一大会（予選を含む）における二重登録または二重出場が発覚した場合には、調査の上懲罰する、その際、チームの責任者も懲罰する。

（審判員に対する違反）

第7条　審判員に対して、個人又は団体がスポーツマンシップに反する行為をしたときは懲罰する。

（審判員の違反）

第8条　本協会公認審判員規程第20条第2項および第3項に違反した場合はその資格を剥奪し懲罰する。

（懲罰の内容、期間）

第9条　違反行為者並びに団体に対する懲罰の内容、期間は、違反行為の内容により訓告、戒告、解職、特定の試合数の出場停止、特定の期間の試合の出場停止、試合の永久出場停止、公的職務の就業禁止、罰金の付加等の罰則を適用する。なお、これらの罰則は組み合わせることもできる。

2 但し、その後の状況に応じて罰則の軽減をすることができる。

（大会の罰則）

第10条　大会に裁定委員会を置く。

2 大会に関する違反行為並びに提訴された諸問題は、裁定委員会で審議する。

3 各大会の裁定委員会での審議結果は、審議内容を含めた報告書とともに、本協会懲罰委員会に報告する。

（競技規則による試合の出場停止）

第11条　大会の裁定委員会は競技規則に示されている違反により、特定の試合数の出場停止、特定の期間の試合の出場停止等の罰則を適用することができる。

（補足）

第12条　第3条から前条に定めるほか、提訴、検討、調査などによって適時罰則を適用することができる。

（細部の規程）

第13条　各加盟団体は本規程が定める範囲内で細部を規定することができる。

附則

1 この規程は、昭和58年4月1日より適用する。
2 この規程の改正は、平成7年6月10日より施行する。
3 この規程の改正は、平成11年2月6日より施行する。

新会員制度に関しての Q＆A

平成11年4月より新会員制度がスタートします。詳細については3月号でお知らせしたとおりです。各方面より寄せられた質問に、理事会からの回答がありましたので以下に掲載いたします。

Ⅰ　がんばれハンドボール10万人会

1. ファミリー会員・グランド会員の募集方法について

日本協会より、料金受取人払いの「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」のつきましたファミリー・グランド会員募集パンフレット（現在作成中）を送付いたしますので、配布の加盟団体が分かるようにご記入いただき、各種大会、行事の折りに依頼かたがた配布をしていただきます。日本協会への返送は、加盟団体でまとめていただいても結構です。

日本協会に届きました「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」は、一括して日本協会でコンピュータ処理の後、金融機関へ送付されます。

なお、自動引き落としのできる金融機関は、各銀行、信用金庫、郵便局、農協などほとんどすべての金融機関が利用できます。（一部漁協など例外があり）

2. ファミリー・グランド会員の募集メドについては

ファミリー・グランド会員の募集につきましては、募集のメドがなければ際限がなく理解を得るのに困難である、人口の少ないところに一律に割り当てられても不公平となる、などのご意見により、日本協会で登録数を基準にしてガイドラインを出させていただきました。あくまでもガイドラインでありますが、この線に沿って募集をお願いしたいと考えております。

3. 県協会への還元金はあるか、またその額はいくらか

ファミリー・グランド会員の募集については、1件につき500円を募集経費として還元いたします。還元時期と回数は、経費がかさむことから年1回か2回を予定しております。

Ⅱ　運営役員登録

1. 名誉職役員について

現在病気療養中であり、活動されていない役員も登録して登録金を徴収するのか？

名誉職であろうとも、何らかの役割を持ちハンドボールに参加する人材であると思います。ここでは全員参加の理念により名誉職といえども登録をしていただく方が望ましいと考えます。たとえ活動できなくとも、ご本人が何らかの形でハンドボールに関与したいというご意志をお持ちであるならば登録を拒否する理由はないはずと考えます。また逆のケースもあり得ると考えます。

2. 役員・委員の重複登録における会費の納入について

一人の人が複数の加盟団体などに登録する場合、最上額の登録金のみ納入するものとする。たとえば、日本協会評議員で加盟団体会長の職を持つ場合、登録金表の役員E欄の20,000円の登録料を支払うこととする。

その他の例

日本協会専務理事で実業団連盟副会長・・・100,000円
日本協会理事で都道府県協会副会長・・・・・・20,000円
日本協会監事で教職員連盟会長・・・・・・・・・・40,000円

役員、審判、指導者、競技者の重複登録者は、登録料もそれぞれの区分で支払うものとする。

登録料の納入については、登録者名簿にそれぞれの役職を記入し、最上額の役職で納入することを明記する。

3. 役員・委員F・Gの加盟団体とはどの様な団体か

日本ハンドボール協会寄付行為に示されるように、加盟団体とは各都道府県ハンドボール協会と全国連盟です。全国連盟とは具体的に、全日本実業団ハンドボール連盟、全日本学生ハンドボール連盟、全日本教職員ハンドボール連盟、全国高体連ハンドボール部、日本中体連ハンドボール競技部を指します。

4. 宛職役員について

県高体連から校長職であるため部長となり、県協会の副会長職にあたる役員も登録して登録金の徴収もするのか？

宛職役員も、全員参加の理念により登録していただく方が望ましいと考えます。お願いすることは決して無駄にはならないと考えています。登録していただければハンドボール界の力となります。しかしながら、県協会の事情もあることであり、無理強いはできないと思います。県協会内の処理で済ますことも可能ではないでしょうか。

Ⅲ　チーム役員登録

1. 中高校の引率顧問について

校長の任命によりハンドボール部の顧問となり校外への引率だけの任命されている先生も役員登録をして登録金の徴収をするのか？

引率教員については、単なる引率に終わり、登録がなければルールにおける権利が発生しないと考えています。

2. チームを兼任しての指導者、選手の時

高校のチームの監督として、役員登録をし、OBチームの監督、選手として、参加したときどう処理するのか？

現在の考え方は、同一領域のチーム（たとえば同じ学校の男女のチーム）の指導者登録は一つでよいと認めていますが、領域の違うチームではそれぞれで登録金を支払うこととしています。原則として、役員、指導者、審判、競技者はそれぞれ違うカテゴリーであり、それぞれに権利が発生するので、それぞれで登録金を支払うものと考えています。

3. この役員登録をしない（拒否）したとき、ペナルティーはどうなっているのか

特にペナルティーはありませんが、それぞれの役割における権利が発生しません。

4. 高校チームのコーチが審判・役員登録をしないときペナルティーはどうなるのか

1番、3番の質問に関連しますが、それぞれにおいて権利が発生しません。

5.個人の銀行口座引き落とし現実に行うのかどうか

現在は技術的、コスト的問題もあり、10万人会と審判登録は実施可能な状態にあります。加盟団体役員については、継続検討しています。

99年度 国 内 大 会 日 程

	大 会 名	開 催 日 程	開 催 地	開 催 場 所
4月	高松宮杯 第40回 全日本実業団選手権大会	4月22日～25日	大阪府	大阪市中央体育館 他
5月				
6月	第24回 日本リーグ	6月26日～3月12日	各 地	
7月	第19回 全国クラブ選手権大会・西	7月16日～18日	滋賀県	長浜ドーム
	第18回 全国クラブ選手権大会・東	7月23日～25日	福島県	本宮町総合体育館 他
	第12回 全国小学生大会	7月30日～8月1日	京都府	田辺市中央体育館
	'99 ジャパンカップ・ヒロシマ国際大会	7月22日～25日	広島県	東区スポーツセンター
	第6回 東日本小学生大会	7月予定	山形県東根市	東根市民体育館
8月	第12回 世界女子ジュニア選手権大会	8月1日～15日	中国・広州	
	第50回 全国高校選手権大会	8月1日～7日	岩手県盛岡市	アイスアリーナ 他
	第7回 マスターズ大会	8月6日～8日	山口県	下関市総合体育館
	第1回 全日本ビーチハンドボール(ワールドゲームズ選考会と兼る)	8月6日～8日	千葉県	安房郡富浦町原岡海岸
	第4回 ジャパンオープントーナメント	8月7日～10日	富山県	氷見市総合体育館 他
	第42回 全日本教職員大会	8月9日～13日	山口県	徳山市総合体育館
	第26回 全国高等専門学校選手権大会	8月6日～8日	高知県	春野総合運動公園体育館
	第28回 全国中学校大会	8月22日～25日	長野県	Mウエーブ
	第7回 日・韓・中ジュニア交流競技大会	8月25日～30日	広島県	東区スポーツセンター
	第3回 日韓スポーツ交流（派遣・受入れ）	8月予定	韓 国	未 定
9月	シドニーオリンピックプレ大会	9月5日～12日	シドニー	オリンピックパーク
10月	第54回 国民体育大会	10月24日～28日	熊本県	山鹿市総合体育館 他
11月	高松宮杯 男子42回・女子35回 全日本学生選手権大会	11月12日～17日	北海道・函館	函館市民体育館 他
12月	第14回 女子世界選手権大会	11月28日～12月12日	ノルウェー	
	第51回 全日本総合選手権大会	12月22日～25日	愛知県	未 定
	JOCジュニアオリンピックカップ	12月25日～27日(予定)	大阪府堺市	家原大池体育館
1月	第24回 日本リーグプレイオフ	3月17日～20日	東京都	未 定
2月	全日本実業団チャレンジ2000	2月11日～13日	愛知県	愛知県体育館
	シドニーオリンピック・アジア予選	1月24日～31日	熊本県	未 定
	第6回 西日本小学生ハンドボール交流大会	2月予定	岡山県	未 定
3月	第23回 全国高校選抜大会	3月24日～3月28日	大阪府	大阪市中央体育館 他

網掛けは、国際大会です。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ'99

男子・デンソーが初優勝
女子・大和銀行が連覇を達成

平成11年2月13、14、15日の3日間にわたって山口県下3会場（岩国市総合体育館、三井化学体育館、岩国商業高校体育館）で全日本実業団ハンドボールチャレンジ'99（高松宮杯第40回全日本実業団ハンドボール選手権大会予選）が行われた。今大会の男子上位8チーム、女子6チームは選手権大会の出場権を得ることができる。男子は32チームが参加し、トーナメント方式で順位を決めた。女子は6チームの参加のため、参加全チームに選手権出場権が与えられる。大会は2ブロック3チームによるリーグ戦後、順位決定戦を行った。

男子は、日本リーグ2部勢が順当に勝ち上がる中、昨年本田技研熊本に初戦敗退したケーブルネット氷見が徳山市役所、三景、トヨタ自動車、アラコ九州と日本リーグ2部勢3チームを破り決勝戦に駒を進めた。デンソーも準々決勝まで危なげなく勝ち進んだ。準決勝でデンソーに敗れたトクヤマも、地元大会ということで必勝体制で臨んだが、チーム若返りの中でゲームの流れをつかむことができず、31－30の僅差で涙をのんだ。決勝戦はケーブルネット氷見に前の試合で負傷者が出たため、デンソーの一方的な勝利となった。ケーブルネット氷見は富山国体に向けた強化チームで、実質的なクラブチームであり、体こそ大きくないがスピードとコンビネーションの今後が楽しみなチームであり、選手権大会での活躍が楽しみである。

女子は昨年優勝の大和銀行が連覇を成し遂げた。

男　子

【1回戦】

デンソー	29－15	海上自衛隊久里浜
日鐵建材	22－19	常陽銀行
金沢市役所	30－20	北熊本自衛隊
セントラル自動車	12－ 0	ブラザー工業
日本製紙	15－13	住友銀行
神戸製鋼所	26－15	三洋電機
トクヤマ	30－ 8	自衛隊下総
アラコ九州	20－17	八光自動車工業
海上自衛隊横須賀	23－18	新日鐵大分
北陸電力	35－ 5	興亜石油
トヨタ自動車	28－12	マツダ
日新製鋼呉鉄球会	46－12	日本原子力研究所
ケーブルネット氷見	31－ 7	徳山市役所
三景	37－12	豊田自動織機製作所
大阪ガス	29－16	日本ゼオン
ティ・アイ・ブロス	20－19	豊田合成

【2回戦】

デンソー	31－11	日鐵建材
金沢市役所	22－18	大阪ガス
セントラル自動車	36－10	日本製紙
トクヤマ	36－10	神戸製鋼所
アラコ九州	36－ 6	海上自衛隊横須賀
北陸電力	24－13	ティ・アイ・ブロス
トヨタ自動車	22－20	日新製鋼呉鉄球会
ケーブルネット氷見	24－20	三景

【準々決勝】

デンソー	37－19	金沢市役所
トクヤマ	36－23	セントラル自動車
アラコ九州	27－17	北陸電力
ケーブルネット氷見	29－24	トヨタ自動車

【準決勝】

デンソー　31（14－15 / 17－15）30　トクヤマ

（戦評）前半立ち上がり、トクヤマはミスが多く、デンソーは速攻からの点を重ねる。10分したところで、8－2とデンソーがリード。その後一進一退の攻防を繰り返すが、残り10分、トクヤマがリズムをつかみ追い上げ、28分、8番保科のシュートで逆転、トクヤマの1点リードで前半を終了する。後半デンソーはトクヤマのミスから得点し3点リードする。残り1分、追いかけるトクヤマは13番中村の速攻で同点とするが、デンソー17番城戸のポストシュートでデンソーがトクヤマを破った。

ケーブルネット氷見　32（11－12 / 15－14 / 2－2 / 1－1 / 37TC1）30　アラコ九州

（戦評）前半立ち上がりから両チーム共ディフェンスががんばり、なかなか得点に結びつかない。10分、速攻から3番塚原が得点し氷見がペースをつかみかけるが、17分からアラコも速攻で対抗。GK谷川の好セーブもあり、アラコの1点リードで前半を終了する。

後半氷見は、13番元島、10番田中にマンツーマンディフェンスをつけ、アラコの攻撃を封鎖、一方アラコもディフェンスがよくがんばり一進一退の攻防が続く。結局後半は同点で終了。延長でも決着がつかず、7TCとなった。氷見は全員成功したが、アラコは2人目の4番村上が止められて



笠哲也（デンソー）選手のシュート

しまい万事休す。32 − 30で氷見の勝利となった。

【3位決定戦】

アラコ九州　25（11 − 11 / 14 − 8）19　トクヤマ

（戦評）アラコはセンター13番元島選手の切れのある1対1からずらし、ポストプレーが得点パターン、一方トクヤマに素早いパスワークから8番保科選手に10番岡本選手のミドルシュートで応戦。互いのGKの好セーブもあり引き締まった試合を展開。11 − 11の同点で前半を折り返した。

後半、アラコはフットワークをいかしたDFからの速攻で3連取。必死に追いすがるトクヤマもスタミナ切れからか足が止まり単調な攻めが続く。17分過ぎ、アラコに退場者が出るも逆に3連続得点をあげて逃げ切った。

【決勝戦】

デンソー　30（13 − 11 / 17 − 11）22　ケーブルネット氷見

（戦評）男子決勝は日本リーグ2部1位のデンソーと、ここまでリーグ勢3チームを連続して退けてきたケーブルネット氷見の組み合わせとなった。前半デンソーは高いディフェンスから7番武田、8番飯山の速攻で得点をするも、氷見もそのディフェンスを破り、15番中川のカットインからサイド9番屋敷へとつなぐなど粘り、13 − 11のデンソー2点リードで折り返す。

後半、氷見にミスが連続し、デンソーは速攻で確実に点を重ねた。氷見も4番江幡のポストなどで必死に追い上げるが力尽きた。デンソー7番武田の攻守にわたる活躍が目立った。

〈最終結果〉

優　勝　デンソー
準優勝　ケーブルネット氷見
第3位　アラコ九州
第4位　トクヤマ

女　子

【予選リーグAブロック】

大和銀行	34 − 15	自衛隊体育学校
自衛隊体育学校	28 − 19	ムネカタ

【予選リーグBブロック】

ソニー国分	14 − 12	香川銀行T・H
ブラザー工業	20 − 13	香川銀行T・H

【予選リーグAブロック】

大和銀行	25 − 8	ムネカタ

【予選リーグBブロック】

ブラザー工業	24 − 13	ソニー国分

【5位決定戦】

香川銀行T・H	20 − 11	ムネカタ

【3位決定戦】

自衛隊体育学校　21（8 − 10 / 13 − 8）18　ソニー国分

（戦評）立ち上がり両チームのディフェンスのあたりが早いためかパスミス・シュートミスが目立ち、ロースコアのゲームとなるかと思ったが、5分過ぎからソニー7番堀尾、6番長木、自衛隊の10番森下、2番高嶺らのシュートが決まり前半10 − 8でソニーのリードで折り返した。後半一進一退のゲームが続き、自衛隊GK工藤の好守で流れが変わり10分過ぎに逆転、21 − 18で自衛隊がねばり勝ちであった。

【決勝戦】

大和銀行　22（13 − 7 / 9 − 11）18　ブラザー工業

（戦評）立ち上がりから両チームとも持ち味を出し、一進一退の攻防を続けるが、大和銀行の早いつぶしからの速攻でじわじわと引き離し、13 − 7で前半を終わる。後半に入り大和銀行の攻めが単調になったところ、ブラザーが速攻、カットインなどでくいさがるも地力に勝る大和銀行が逃げ切った。

〈最終結果〉

優　勝　大和銀行
準優勝　ブラザー工業
第3位　自衛隊体育学校
第4位　ソニー国分
第5位　香川銀行T・H
第6位　ムネカタ



田中美音子（大和銀行）選手のシュート

第5回西日本小学生ハンドボール交流大会
倉敷にて開催される

西日本の少年少女にハンドボール競技の喜びを体験する機会を広く提供し、競技会を通じて少年少女の相互の交流を深めるとともに、体力の増強と健全で豊かな心の育成を図る目的で、表記大会が平成11年２月13日（土）、14日（日）に岡山県倉敷市を会場に行われた。大会は日本協会の主催、岡山県体育協会の共催、岡山県協会の主管で行われた。

岡山県では、昨年に引き続き２年目の開催で、13府県の33チーム、約500人のチビッ子ハンドボーラーが集まる盛大な大会となった。また、今大会では、普段は試合に出る機会の少ない低学年の部が実施された。参加チーム、結果は以下の通り。

◇高学年男子の部決勝

内間クラブ vs 笹川ハンドボール少年団

前半、内間クラブの座覇が先制するが、笹川ハンドボール少年団は佐野のカットインで追撃する。一進一退の攻防を繰り返すが、内間クラブ山原のフリースローからの３連続得点で９－５で折り返す。後半、内間クラブは退場者を出し、４人で守る場面もあったが、キーパー當真の好守で前半のリードにも助けられ、14-10で逃げ切った。

◇高学年女子の部決勝

浦城ハンドボールクラブ vs 真弓クラブ

前半、浦城ハンドボールクラブはＧＫ名嘉を中心に守って速攻で得点を重ねる。セットプレーでも、大城の活躍などで、13-２で折り返す。後半開始直後、真弓クラブのエース中本に、浦城の仲里がマンツーマンにつき、攻撃のリズムを崩す。攻めては、儀間のカットインなどで得点を重ね、浦城ハンドボールクラブが完勝した。

大会の様子は地元山陽新聞にも報道され、永井忠和岡山県理事長のコメントと共に参加選手のコメントが掲載されていたので以下に紹介する。

「初試合楽しかった」
総社クラブジュニア・嘉原弘顕くん（総社中央小学校１年）

初めての試合だった。とても楽しかったです。パスとかドリブルとか、練習通り上手にできた。練習では一番好きなのがシュートなんだけど、きょうもうまくできて、たくさん点が入った。ハンドボールはとてもおもしろい。練習を頑張って、また試合をやりたい。



「強いチームから勉強」
岡山エンジェルス主将・谷口彩さん（操南小学校６年）

みんなまだ始めたばかりだし、試合経験も少ないので、勝ち負けよりも楽しみながら頑張った。このような大会を、岡山で開いてくれてうれしい。ほかの県の強いチームからいろんなことを勉強した。今は月に２度ぐらいしか練習がないので、これからはほかのチームに負けないようもっと練習したい。



【男子の部】

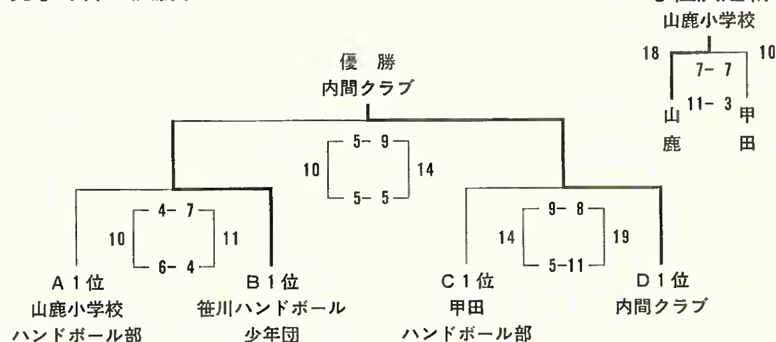
■予選リーグＡ組順位
①山鹿小ハンドボール部（熊本県）
②播磨ラッキーズ（兵庫県）
③大浜キッズ（大阪府）
④香川町スポ少オリーブくん（香川県）
■予選リーグＢ組順位
①笹川ハンドボール少年団（三重県）
②総社クラブジュニア（岡山県）
③大津ジュニア（滋賀県）
④LITTLE GUTS（山口県）
■予選リーグＣ組順位
①甲田ハンドボール部（広島県）
②延岡東ハンドボールクラブ（宮崎県）
③倉敷ジュニア（岡山県）
④明石ジュニア（兵庫県）
■予選リーグＤ組順位
①内間クラブ（沖縄県）
②真弓クラブ（奈良県）
③瀬戸オールスターズジュニア(岡山県)
④上西ハンドボールスポ少（香川県）
■決勝トーナメント（別表参照）

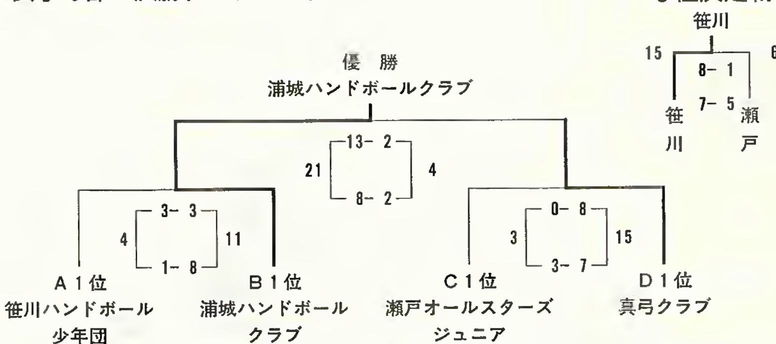
【女子の部】

■予選リーグＡ組順位
①笹川ハンドボール少年団（三重県）
②大浜キッズ（大阪府）
③岡山エンジェルス（岡山県）
■予選リーグＢ組順位
①浦城ハンドボールクラブ（沖縄県）
②香川町スポ少オリーブちゃん(香川県)
③LITTLE GUTS（山口県）
■予選リーグＣ組順位
①瀬戸オールスターズジュニア(岡山県)
②甲田ハンドボール部（広島県）
③明石ジュニア（兵庫県）
■予選リーグＤ組順位
①真弓クラブ（奈良県）
②倉敷ジュニア（岡山県）
③上西ハンドボールスポ少（香川県）
■決勝トーナメント（別表参照）

【低学年の部】

■リーグ戦（順位）
①フェニックスセブン（島根県）
②LITTLE GUTS（山口県）
③総社クラブジュニア（岡山県）
④オリーブジュニア（香川県）
⑤大津ジュニア（滋賀県）





「ヤングの知恵を借りよう」

Free Throw（フリースロー）

企画・広報委員
早川　文司

暖冬だったせいだろうか、今年の桜の開花予想は全国的に例年より早く、西日本では今ごろは花見の真っ最中ではないだろうか。身も心も浮かれる春とは、昔からよく言われてきたが、昨今はそうとばかりはいってはおれない。長引く経済不況は、失業者数もワースト記録を更新しているありさま。まだ出口が見当たらない厳しい現状である。

暗いのは経済界ばかりではない。関連が当然ながらあるのは間違いないが、日本リーグ男子だけをながめても１部の中村荷役、日新製鋼、２部も日鐵建材工業、ケー・エフ・シーが撤退を余儀なくされた。新たに参入の希望もないことから、来季は１部８、２部６チームで行われることになった。かつて三菱レイヨンの例があるが、１年でこれほど多くのチームが撤退するのは、過去に例がないのではあるまいか。

それほど日本の不況が深刻だともいえるわけで、ハンドボールに限らず日本の実業団スポーツ界に多くの警鐘になったのではないだろうか。まっ先にリストラの対象になるのはスポーツ部であるのは、企業とすれば当たり前かもしれない。企業あっての部活動だけに止むを得ないことも納得出来る。それだけに今回の出来事は今後もないとは言えないし、今後のあり方を真剣に考える必要があるだろう。

また、日本代表を考えても、男子は世界選手権出場を逃し、アジア大会でも銅メダルに終わった。そして蒲生監督が辞任に追い込まれた。昨年は全くといっていいほど、いいニュースは聞けなかったといえるだろう。

でも、暗いことばかりを思ってもどうしようもない。ハンドボール界としていかに早く明るい道を探し求めるかであろう。

とにかく今言えることは、後ろを振り返ることでなく、前へ一の攻めの姿勢である。それにはファンの注目を集めるパフォーマンスをどれだけ企画できるかだ。他の競技団体からも「ハンドボールはやるな」と、驚かせるイベントを開催できないだろうか。あっと言わせる何かが必要なのである。普通のことを普通にやっていては、現代では通用しないと思う。過去のイメージからは大脱線の企画が注目を集めるのではなかろうか。ハンドボールには何が今必要か。中学、高校生部員にアンケートをとってみてはどうだろう。彼らの柔軟な発想を借りることも、活性化への道ではないだろうか。

ANA

ANA CARD

ANAカードなら、旅の応援機能満載。マイレージの楽しさも大きく広がります。



空港でも余裕の
チェックイン



出張先でのショッピングも
バックアップ





旅の安心。
保険もサポート

ホテルのご利用も
おトク倍増



航空券ご予約が、
スムーズアップ

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード!

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

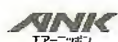
一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円=1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売 ●高島屋 ●日本石油SS ●出光SS











さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ!

飛ぶたびに基本マイレージの15%(ワイドカードの場合。一般カードは5%)のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル(ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル)のボーナスマイルでおトクに貯まります。

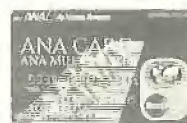
今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

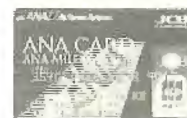


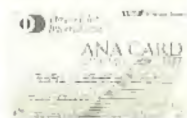
今日からマイルが
貯められる
インスタントカード付き

お問い合わせ、入会申込書のご請求は、フリーダイヤル 0120-029-707 まで
[受付時間] 9:30～17:00(土・日・祝・年末年始を除く)
全日空各支店、空港カウンターにもございます。









列島縦断 【岡山県の巻】

岡山県協会の歴史と今後の課題(2)

岡山県協会理事長　永井忠和



【その2】

昭和24年規約も整備され、役員の充実をはかった年であり、競技面では第4回国体（東京）女子岡山一女（現岡山操山高校）優勝、男子津山高校第3位、一般女子倉敷精思高校ＯＧ第2位。昭和25年名称が送球からハンドボールに変わった年である。この年から昭和30年までは全国大会で上位に進出していたが、以後全国大会に出場するものの上位進出はならず、全般的に競技力の低下が見られるようになった。昭和37年第17回国体が本県で開催され、天皇杯4位、皇后杯3位を勝ち取った。昭和40年から60年代においても全国大会では、たまに上位進出することはあっても、他県との歴然としたレベルの差を見せつけられるようになった。国体には成年男女は数回出場しているがその中でも特筆すべきことは、昭和60年第40回国体（鳥取）少年男子、成年女子が岡山国体以来24年ぶりに出場したことである。さらに平成9年少年女子が岡山国体以来35年ぶりに「なみはや国体（大阪）」に出場したことである。少年男子は北海道国体以来10年ぶりに「かながわ夢国体（神奈川）」に出場したことである。

3　今後の課題

高校男女は多少のレベルアップが成されたが、全種別が全国で上位を目指すためには、指導者の養成のため国内・外から優秀な指導者を招き講習会を開催し、指導をもとに指導者同士連絡を緊密にして選手の育成をはかり、全国レベルの競技力をつける体制をつくり選手強化を実践する（海外遠征も必要である）。さらに必要なことは、平成17年岡山国体に向けてのジュニア層の育成であり、中学校近県フェスティバル、西日本小学生交流大会等をレベルアップの場として活用する。これからは、若手指導者を中心に普及、強化、審判の各部門で連携を取りすべての面で向上をはかっていくのが県協会の進むべき道だと思う。

4　西日本小学生交流大会

平成17年岡山国体を考え、ジュニア層の育成と強化の一環として第1回から3回までは香川県協会が主催していたが、平成9年第4回大会から岡山県協会が日本協会の指導のもと9年度途中で引き受けたため、体育館の確保が難しく大会期間中1日、さらに計画段階の期間がなく、現実には香川大会の規模を縮小せざるを得なくなり、参加されていた他県の関係者の方々に多大なご迷惑をおかけしたことを紙面を借りてお詫びする次第である。第5回大会は平成11年の2月第2週の土・日に実施が決まっている。国体までは出来ないにしても、後何年間かは実施する予定である。



寄稿 愛知県中学校ハンドボール部活動と今後の課題

正色スポーツ少年団代表指導者 **西川　勤也**

愛知県スポーツ少年団副本部長・愛知県スポーツ少年団指導者協議会会長・
元愛知県ハンドボール協会常任理事・元全国中体連ハンドボール部審判部長

日本ハンドボール協会機関誌1968年（昭和43年）No.52に愛知県中学球界の実情と題して、ハンドボール部活動について寄稿しました。

内容は実施校の活動および技術面など指導者の養成が急務である点を重視して審判講習会、実技講習会の開催などの普及活動について、1970年（昭和45年）No.75には、特集「年少層対策を考える」と題して、各都道府県協会からのデータを収集して、「中学校ハンドボール」「ハンドボールスポーツ少年団」の現状が報告されました。

また1970年（昭和45年）No.80にも「中学生対策を探る」など日本協会として、他協会が中学生を対象とする全国大会を実施するようになって、腰をあげるようになってきました。

愛知県協会としては昭和40年代初頭に、中学校ハンドボール部の実態調査を行い、中学校部活動指導者を対象として実技講習会、審判講習会と普及の遅れている地区の発展につとめてきました。結果は、10年後を目標に100チームを達成し、活気ある大会運営ができるようになってきました。

平成になって、少子化の問題にあわせて各中学校における指導者（先生）の高齢化が進むにつれて、休部、廃部と部活動全体に衰退が目立ってきました。ハンドボールについても同様です。この対策についてどうすれば解決できるか考えてみたいと思います。

ラグビー協会が各地に開設しているラグビースクール、サッカー協会の子供に対する指導者の養成など、全国的に協会サイドの指導がなされてきました。

ハンドボール協会も神奈川県協会（若崎先生）が中心となって、昭和41年、横浜市三ツ沢競技場、横浜文化体育館において、ハンドボールスポーツ少年団の集いを開き、各都道府県にハンドボールスポーツ少年団旗を配布して、活動の第一歩を踏み出しました。翌年、第２回の集いが柏崎市で開催され、その後岐阜県協会が中心となって、乗鞍青年の家で３回ハンドボール少年団の交流会を開きましたが、残念ながらその後立ち消えとなりました。平成になって、京都府で全国小学生ハンドボール大会が開催されるまで、スポーツ少年団の育成が努力されなかったのではないでしょうか。

現在、全国各地にハンドボールスポーツ少年団が存在していれば、中学校部活動の休部、廃部などスポーツ少年団指導者が、「外部指導者」として指導にあたることによって、存続させることができるのではないでしょうか。

これからの地域スポーツは、文部省、日本体育協会が現在、小学校区、中学校区単位を対象に総合型地域スポーツクラブの推進に力を入れています。

協会としては、すみやかに指導者の育成に積極的に取り組んでいただきたいと思います。また全国のハンドボーラーの皆さんも積極的に参加し活動してください。

私も日本ハンドボール協会のハンドボールスポーツ少年団の育成指導によって、昭和44年４月、正色スポーツ少年団を結団して30年、これからもハンドボールの普及活動に、青少年健全育成に努力したいと思っています。

愛知県中学校ハンドボール大会参加チーム数（昭和55年はハンドボール実施校のみ）

年度		1968	S43年	1980	S55年	1990	H2年	1998	H10年
地区名		学校数	実施校	学校数	実施校	学校数	実施校	学校数	実施校
東三河	男	62	15		12	64	15	64	11
	女	62	8		13	64	16	64	11
西三河	男	65	8		15	80	22	81	19
	女	65	6		12	80	21	81	16
名古屋	男	74	18		27	109	38	110	34
	女	74	10		14	109	29	110	21
東尾張	男	47	7		24	61	32	62	16
	女	47	7		20	61	24	62	15
西尾張	男	53	16		32	63	45	65	31
	女	53	14		31	63	43	65	27
私学	男	7	1		1	10	1	13	1
	女	14	1		0	15	1	15	1
合計	男	308	65		111	387	153	395	112
県全体	女	315	46		90	392	134	397	91

連載① 世界の技術・戦術を学ぶ

―World Handball Magazineより―

指導委員会

今回からの連載は、「世界の技術・戦術を学ぶ」と題して、IHFより発行されるWorld Handball Magazineの中の技術練習として取り上げられている部分を、指導委員会を中心に多くの指導委員会技術指導部・情報担当の協力を得て訳していただき、それを構成して多くのハンドボール関係者のみなさまへ情報を提供しようとするものであります。

この連載の中におけるポジションの表記に関しては、基本的には参考図に示すドイツ語表記を利用いたします。

（指導委員会　笹倉清則）

第1回 WHM 2/94より

指導委員会技術指導部・情報担当
村上成治（大阪教育大学）
土井秀和（大阪教育大学）

速攻トレーニング

第1章 基礎的な準備練習

担当　ディートリッヒ・シュペーツ（Dietrich Spate）
IHFコーチング委員会委員

ハンドボールのゲームの魅力がますます増大してきたことは様々な人々に語られている。IHFコーチングシンポジウムが1993年デュッセルドルフで開かれて以来、論議の焦点はより魅力的なゲームにするためのルール変更計画であり、これらの計画はIHFの研究グループによって組織的に取り扱われている。もっとも、これはハンドボールのゲームがとりわけメディアによる2000年以降の違ったタイプのスポーツを取り上げようとしていることへ対抗しうる唯一の戦略でもある。ゲームそのものはまだプレイの技術的な向上という意味合いや、ゲーム運びの進め方のようにより多くの多義性をもった多くの戦術的可能性がある。1993年デュッセルドルフで開かれた国際コーチングシンポジウムでベント・ヨハンソンは主要なトレーニング分野として特に、２次、３次速攻には戦術をまだまだ発展させる見込みがあることを指摘している。確かに、1988年ソビエトチームは組織的な速攻を用いることで、総得点の35-40%を簡単に挙げることができることを印象的にやって見せた。あいにくこの証明は90年代が始まるまで厳密には追求されなかった。コーチたちは試合の中で、絶えず変化させ、連続する速攻を行うことは一朝一夕にできないことを知っている。ジュニア期の基礎トレーニングでは高いパフォーマンスレベルに必要ないろいろな条件に向けた相応の“速攻の要素”を学習させなければならない。速攻の獲得とそのトレーニングに向けた方法論的、戦術的観点はその主要な内容を２次及び３次速攻に置いた３つの項目で示される。その項目は次のように整理することできる。

第１項
防御から攻撃へ素早く転じることを学ぶ基礎的なトレーニング

第２項
簡単な速攻に関する組織的な導入部

第３項
３次速攻のための戦術的ゲームプラン

第2章 局面と速攻の戦術的目的

図１は以下に解説するような速攻の３つの局面を概略的に表している。

〈図１〉

局　面	目　的
一　次　速　攻	素早いスタートによって敵を突破する
二　次　速　攻	後からのフォローするより多くのプレイヤーによって数的優位を作る
三　次　速　攻	陣形は整ってはいるが、正しいポジションでなく、むしろ消極的な防御に対してプレイを継続する
攻撃を組織する	速攻の中断とポジション攻撃を組織するための移行

◎**第１次速攻**

第１次ではたいてい２、３人の素早いサイドプレイヤーやポストプレイヤーは相手がシュートを打つや否や防御帯からスタートする。それによって、相手プレイヤーを背後に置き去りにすることができる。ゴールキーパーや防御帯にいるプレイヤーから１次速攻のプレイヤーへ送るロングパスは典型的な行為である。



◎**第２次速攻**

もし、１次速攻のプレイヤーへのパスができなかったら、その時は主に、バックコートプレイヤー(※１)である２次速攻のプレイヤーが短く、素早いパスをつないで前方へ移動し、攻撃での数的優位を維持しつつ、有利にプレーを進める。

※１　両サイドプレイヤー、ポストプレイヤーをフロントコートプレイヤーと言うのに対し両45プレイヤー、センタープレイヤーをバックコートプレイヤーと言う。

◎**第３次速攻**

もしボールを失った後、相手チームのプレイヤーがタイミング良く帰陣することに成功した結果、１次速攻または２次速攻によって得点できない場合、防御プレイヤーは多くの場合、このような状況では消極的に反応する。それぞれのプレイヤーはまだ自分の正規のポジションを占めていないので、それぞれの防御隊形の原則に基づく効果的な防御をまだ100%行うことができない。相手防御の一瞬の消極性は３次速攻の狙い目である。前方へボールを運んだ２次速攻のプレイヤーはすでに準備を整えているが、しかし、消極的な防御に対してシュートチャンスを得るために（中断することなく攻撃を継続する)、すぐさま狙いとする戦術的な手段をハイテンポで遂行する。連続した速攻プレーの一般的な戦略は図２に要約されている。

〈図２〉

速　攻　戦　略

敵の防御の交代
正しいポジションに着いていない防御に対する攻撃
影響を及ぼすプレイテンポ
精神的・肉体的プレッシャーを敵に加える
魅力を増す
敵の攻撃戦術に影響（危険性を！）を与える

第３章　基礎的な準備練習

次に述べる基礎的な練習は以下に示すように基礎的な形態とゲームに近づけた形態で行う。

—ディフェンスからオフェンスへの素早い転換

—相手コートへの素早いボール運び（２次速攻の準備）

—適切な技術的能力の獲得（たとえば、素早いパスや動きながらのキャッチング）

—個人戦術能力の獲得（たとえば、ノーマークとなる位置取り、ボールを持っていないときの動き）

これらの基礎的な練習は13〜14才のジュニア選手のための基礎トレーニングとして行うことができる。

〈基礎的な準備練習〉

◇練習１（図３）

バリエーションＡ：２対１の速攻

コートを縦に分割する。２対１で（２人の攻撃プレイヤーと１人の防御プレイヤー）攻撃プレイヤーは相手コートにボールを運び、シュートを打つことのできるポジションを占める。

※留意点

・攻撃プレイヤーはワンドリブルまたは連続ドリブルを行わない。

・攻撃プレイヤーは特に、ボールをもらう瞬間に防御プレイヤーに触られないように素早く動かなければならない。

バリエーションＢ：パサーを伴った１対１の速攻

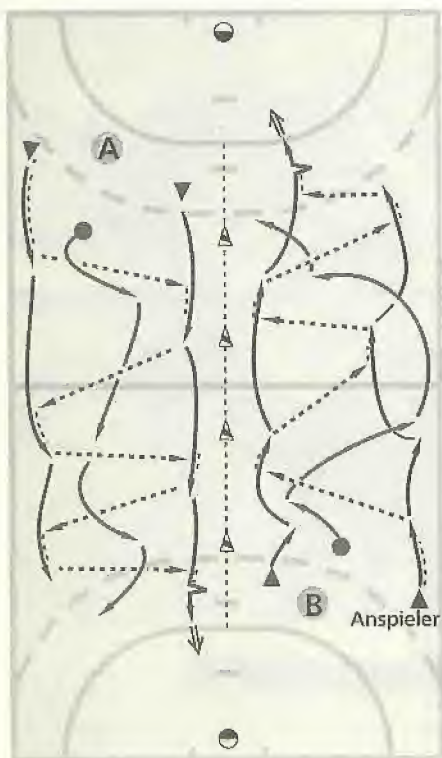
１人の攻撃プレイヤーが得点を許さない防御プレイヤーと攻防を行うという点を除けばバリエーションＡと同じである。

※留意点

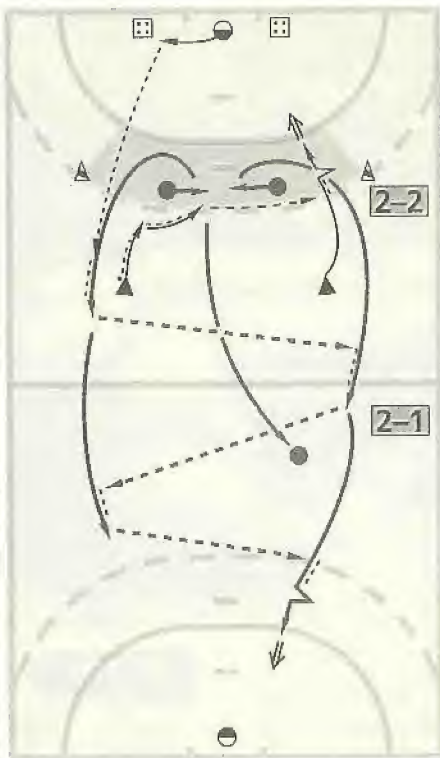
・攻撃プレイヤーは１度だけドリブルをしてもよい。

◇練習２：２対１の速攻（図４）

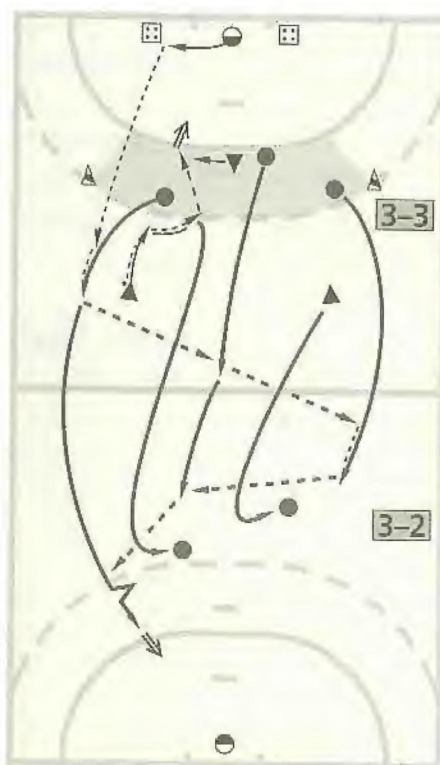
限定された空間で２対２が行われる。シュートを打った後、２人の防御プレイヤーは速攻のためにスタートする。



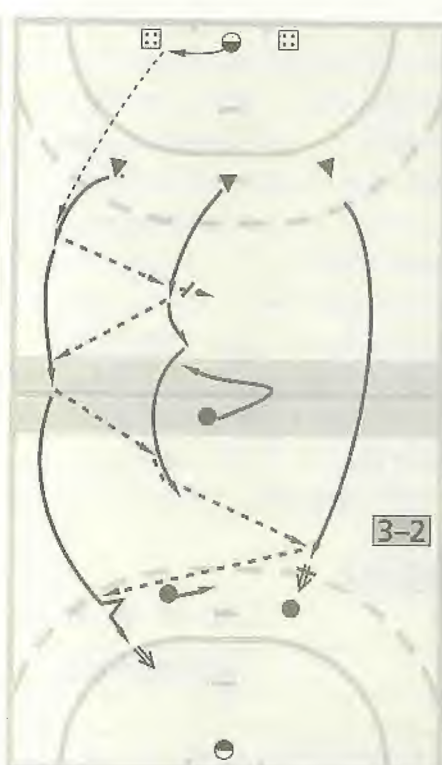
〈図3〉



〈図4〉



〈図5〉



〈図6〉

一方、シュートを打たなかった攻撃プレイヤーは防御プレイヤーになる。速攻の時だけ2対1になる。

◇練習3：3対2の速攻（図5）

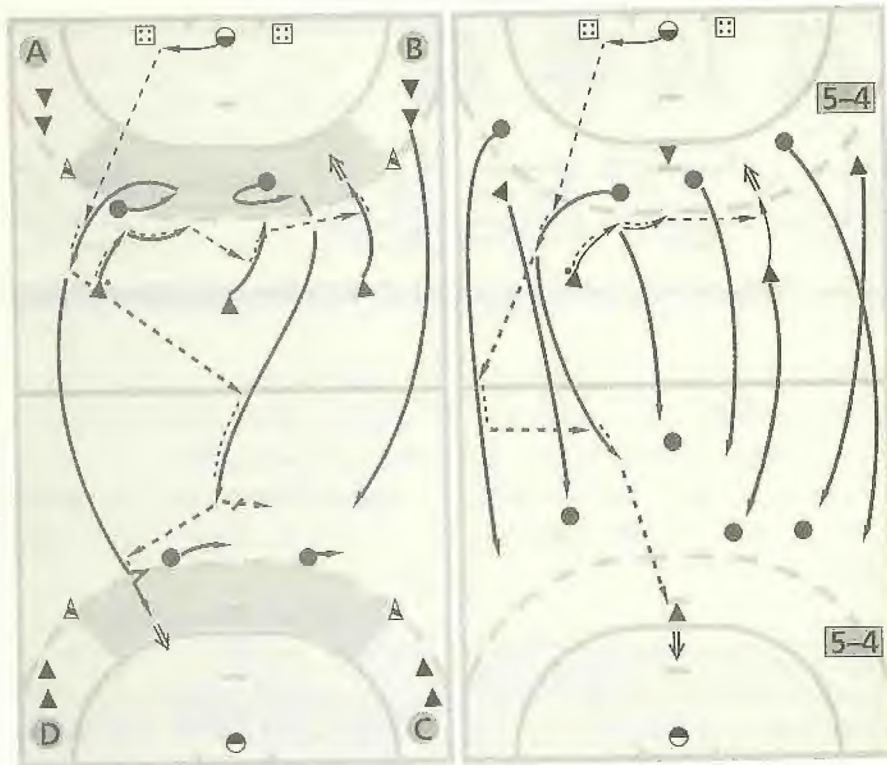
限定された空間で3対3が行われる。その際、1人の攻撃プレイヤーはポストプレイヤーとして動く。シュートの後、3人の防御プレイヤーは速攻のためにスタートする。一方、2人のバックコートプレイヤーは防御プレイヤーになり、速攻をじゃまする。

◇練習4：3対1／3対2の速攻（図6）

3人の攻撃プレイヤーはコーチの合図で防御運動を行った後、速攻のためにスタートする。最初に、センターライン付近にいる防御プレイヤーがボールをインターセプトしたり、ボール保持プレイヤーをじゃましてくるが、それをかわしてセンターラインを横切らなければならない。センターラインを横切った残りのコートで3対2が行われる。

◇練習5：連続速攻の練習（図7）

グループDやCの最初の3人のプレイヤーは速攻のためにスタートし、相手側のコートの限定された空間で3対2



〈図7〉　〈図8〉

を行う。シュートの後、すぐさま2人の防御プレイヤーにグループBの1人の防御プレイヤーが加わり、速攻のためにスタートする（AとBが交互に行う）。

交代：シュートを打ったプレイヤーはグループBの後ろに並ぶ。一方、他の2人はすぐさま防御に移動する。

◇練習6：ポストプレイヤーを伴った5対4の速攻(図8)

両コートで固定したポストプレイヤーがゴールエリアライン付近を動く。最初に、5対4を行い、シュートを行う。その後、4人の防御プレイヤーは速攻のためにスタートする（2人のバックコートプレイヤーと2人のサイドプレイヤー）。その際、センターラインを横切った後で、動いているポストプレイヤー（5対4になる）にパスすることもできる。(認知トレーニング)。

【重要なアドバイス】

・ボールを持たない攻撃プレイヤーは防御プレイヤーの“影”の中で動かないように（防御プレイヤーから離れるように）！
・速攻の時は横一線に走ってはならない！
・素早くかつ可能ならばわずかなパスでコート中央を横切るように！
・できればワンドリブルや連続ドリブルを用いないように！
・密着して守られているボールを持たないプレイヤーは移動して、ノーマークになるように！

【基礎練習時の方法についての注意】

・攻撃プレイヤーは、
　—一度だけドリブル／連続ドリブルをしてもよい
　—ワンドリブル／連続ドリブルはしない
・どのグループが多く得点したか？
・防御プレイヤーは、
　—まず自分のコートに戻ってから防御する
　—その際、マークする攻撃プレイヤーがボールを保持すると、すぐさま積極的に防御する

平成10年度 レフェリーシンポ

平成10年度のレフェリーシンポジウムが２月27日（土)、28日（日）の両日に渡って東京体育館（27日)、国立オリンピック記念青少年センター（28日）を会場に行われた。全国各地から約80名の参加者があり、講演、日本リーグ観戦、討論、ビデオ講習、フリートーキングなど様々な趣向によるシンポジウムとなった。

【第１日】

開催に先立ち、市原専務理事より挨拶が行われた。ハンドボール競技における審判員の重要性と競技力向上における審判員の占める役割について話があり、平成11年度から導入される審判員の登録制度に対する意義と理解、協力を求める提言がなされた。特に新会員登録制度に関しては、現在置かれているハンドボール界の状況と全員参加によるハンドボール競技の活性化を図るための具体的な説明がなされた。参加者からは、直接専務理事からの説明により、改めてハンドボール界におけるレフェリーの重要性を再認識するとともに、レフェリー自身も一人のハンドボール競技を支えるメンバーとして全員参加することの意義を感じたとの意見が聞かれた。



斉藤審判部長

斎藤審判部長からは、昨年４月より任に当たっていることの挨拶と審判部の活動、方針について話がなされた（機関誌３月号巻頭言参照)。

加藤審査指導委員長からは、審査報告、審判審査とレフェリーに対する要望がなされた（機関誌３月号12ページ参照)。

その後、杉山茂氏（元NHKスポーツディレクター）と三枝慶彦氏（山梨県スポーツセンター、元国際審判員）よりファンと指導者の立場からのレフェリーへの提言の講演がなされた（講演要旨はこの章の終わり、三枝氏の要旨は５月号に掲載)。

続いて、体育館へ移動し日本リーグ（男子１部：中村荷役×本田技研、女子１部：日立栃木×シャトレーゼ）の試合を観戦し、意見を交換し第１日目を終了した。

【第２日】

昨日観戦したゲームの担当レフェリーよりゲームに臨む考え方や、事例を挙げての説明がなされた。さらに、参加者から実例を挙げた場面の具体的な質問が担当レフェリーに対し行われ、レフェリーを交えて、その場面についての討論が進められた。

98年に行われたゲームの中から、76シーンを選んだビデオを流しながら、その事例をもとに討論が進められた。シンポジウムということから、審判部としての見解は出されずに参加者が意見を出し合うに止められた。なお、このビデオは、資料として参加者に配布された。

続いて、フリートークとして光島磯雄氏（兵庫）が日本リーグ評価表の事後処理についての要望、番号の判別しにくいユニフォームや得点掲示板の改善要望、招聘外国人レフェリーに対する要望を述べ、江成元伸氏（東京）がビデオ資料を用いて「失格・追放に関する映像による事例研究」

ジウム

の報告をおこなった。

最後に、斎藤審判部長より事前に出された質問に対する回答が行われ、全ての日程が終了した。

参加者は以下の通り。

小笠原久郎、大橋幹正（北海道）、町屋明彦、滝口孝之（青森県）、中館豊、多田和生（岩手県）、尾形俊賢、池田加一（宮城県）、古関直樹（秋田県）、菊田克紀（福島県）、北村善夫、菊田政行、冨田拓、稲吉繁（茨城県）、大出治男（栃木県）、譲原昭（群馬県）、田中孝（埼玉県）、清水宣雄、仲田稔、植村彰、門前広光（千葉県）、後藤登、浜田浩和、鈴木慎二、小山浩、兼田佳博、江成元伸、村松誠、兼子真、山田保則、佐藤和孝、島田房二、川口定男、井田一博、永春文義、得居秀臣、北島浩（東京都）、白坂篤哉、南木雅弘、中村久、安田寛、菅野俊雄（神奈川県）、市瀬公敬、水越日出夫、松崎豊、舟久保（山梨県）、塩川亮広（長野県）、小川浩（新潟県）、山口弘夫、光安美津夫（富山県）、仲野数也（福井県）、細沢覚、清水保雄（静岡県）、河合千丈、渡辺貞彦、青木英樹、浅野幹也、岩本晃寿、丸山竜司（愛知県）、高森賢（岐阜県）、吉田正明、吉田敏明、佐谷光一（大阪府）、神野利雄、馬場保夫、光島礒雄（兵庫県）、藤井俊朗、野島祥之（岡山県）、米田健（広島県）、小川昌志（徳島県）、竹村久晴（愛媛県）、森川壽人、中園嘉彦（福岡県）、大村守也（熊本県）、島村浩信、山地悟、宮崎和彦（大分県）、馬場口和久、井料たか子（鹿児島県）、友寄隆男（沖縄県）

・運営スタッフ

斎藤実（審判部長）、加藤雅之（審査指導委員長）、藤本昇、福田英明、矢澤達司（審査指導委員）、花野誠一（総務委員長）、井田一博、兼田佳博、北村善夫（総務委員）



熱弁をふるう杉山氏

講演要旨
「ファンからレフェリーへ」
杉山　茂氏

はじめまして。昔はこういうところへ来るとほとんどが顔見知りだったのですが、最近は知らない人の方が多くなりました。それだけハンドボール界が大きくなったと言うことでしょう。

僕も昔はハンドボールコートに立っていたのですが、最近はファンとしてスタンドから見ることが多くなってきました。ファンとしてスタンドから見るということは、自分が見たい大会、ゲームを選別するということになります。日本の伝統なのでしょうが、スポーツを人に見せるということに無関心でした。学生スポーツの時代はそれで良かったのでしょう。今でこそ日本リーグも23回を数えるまでになりましたが、当時学生が力をつけたスポーツだということもあったのでしょうが、日本リーグのスタートも他競技に比べ出遅れたのもこの辺に原因があったのではないでしょうか。

今日は、一ファンとしての立場で「見せるハンドボール」ということで話したいと思います。

昨年、横浜で国体があり多くのビッグゲームを見る機会がありました。その中で、特に印象的だったのは成年女子

の準々決勝の4試合です。その4試合のレフェリングで気づいたことは、4試合全てが違う競技を見ているような印象を受けたことです。最近はゲームの中で個々のレフェリーの判定は一貫してきていると思いますが、レフェリー間での判定の違いがあるように見られます。前のゲームで反則であったものが、今のゲームでは許される。それをレフェリーの個性と言ってしまったのでは、見せられる方はたまったものではない。IHFでも、全てのレフェリーが全く同じに吹けとは言っていないし、レフェリーの個性は大切だと言っているが、ルールを勝手に解釈していいとは言っていない。国体の、同じ成年女子というジャンルで、しかも準々決勝で、それなりに鍛えられたチーム同士のゲーム4試合で異なった競技のように感じられるレフェリングであってはいけない。判定が試合ごとにバラバラでは、見る方


熱心に聞き入る参加者

にはわからないし、見にくくなる。これらの判定の違いは、レフェリーの優劣ではない。しかしながら、見る側にはハンドボールとはどういうスポーツなのかということがわからなくなってしまうのである。

これからのスポーツでは、選手は見に来てもらえる技術を披露することになるし、俺達のプレイを見に来てくれという姿勢が必要になる。ここには自ずと個性というものが必要となり、例えば一昨年来たマグデブルグのスーパーエースのクレッチマーに対してファンは今日はどんなピアスをつけてくるのか、どんな髪の色で試合をするのかを楽しみに会場に来る。かつてその様なことは考えられもしなかったけれど、デンマークやノルウェーの女子の選手などはNBAが目標だと言い切っているほど最近のヨーロッパのハンドボールは見る人を意識している。このように最高のプレイを見せるという選手の能力を十分に発揮させるのが、これからのレフェリーにとっての究極の仕事ではないかと考える。

そして見る側が求めているのはスピードであり、継続性、途切れないということである。これはテレビの要請でもあります。例えばマルチボールシステムと呼ばれるもので、バレーボール、サッカー、ラグビーでも複数のボールで継続してゲームを運営するようになっている。反面、ハンドボールにおいても7mスロー時のタイムアウト、チームタイムアウトが導入されるなどゲーム時間の分断も生じてきている。これもヨーロッパに民放ができたことによるテレビのコマーシャルタイムの要請なのです。今、チームタイムアウトはチームが取りますが、やがてNBAのようにオフィシャルタイムアウトが導入されるのではないかと考えます。これほど、現代はスポーツとテレビの関係は深くなっているのです。これを発展と言っていいかわかりませんし、皆様のように真摯にスポーツに取り組んでおられる方にとってはコマーシャリズムにスポーツが振り回されているというかもしれません。今、日本リーグには5人の契約選手がいますが、これが減ることはないでしょう。彼らをプロ選手と呼べば、それが今の日本が置かれているスポーツの現状です。その様な中で、レフェリーの笛がアマチュアリズムであって良いはずはありません。

観客が求めているのはスピードであり、継続であります。レフェリーに考えていただきたいことはコーチ側と話し合ってどんなハンドボールにしたいかということです。日本リーグや全日本の選手にルールを守ろうなどと言っても意味がありません。3月に日本リーグが終わったら、来年はスピードなのか、ハードなのかということを話し合っていただき、次のシーズンに臨んでいただきたい。楽しい、おもしろい、速い、激しいハンドボールを御客様に提供するためにレフェリーソサイエティーとコーチングスタッフが一緒になって新しいハンドボールを作っていって頂きたいと思います。また、そうでなければファンは納得しないでしょう。

日本リーグを見に来るお客さんはエキサイティングで、技術的にも、身体接触においてもスレスレのプレーを求めてきます。この様なゲームが提供できるようなレフェリングを期待しています。もちろんルールを守り、フェアーに、安全であることは大切です。しかしこれだけ多くのスポーツがある中で、ハンドボールにファンが求めるものはエキサイティングで、スピーディーなゲームであるということも忘れないでください。

今日はファンとしての立場から話させて頂きました。ありがとうございました。

スポーツトレーナーの活動報告

① 第3回世界学生女子ハンドボール選手権大会

(1998年6月27日～7月7日、於ポーランド、ブロツワフ)

● 成瀬美紀（浜脇整形外科病院）

1998年6月27日より7月7日まで、ポーランド人民共和国のブロツワフという都市で2つの会場に分かれ、第3回世界学生女子ハンドボール選手権が開催された。登録された国は12カ国で、実際の参加国はロシア不参加のため11カ国であった。

選手権の結果は、11チーム中10位と好成績は残せなかったが、選手にとてもいい経験となった試合内容であったと思う。今回私は、トレーナーとして6月10日より日本での強化合宿から参加した。参加初日はこちらで用意したチェックリストに記入してもらい、それを元に個別にメディカルチェックを行った。

メディカルチェックの内容は、1．現病歴　2．既往歴　3．プレイ前後のケアの有無　4．常備薬　5．月経日などであった。このチェックリストを参考に、ケアの内容などを本人と相談して決めていった。

日本での1週間の合宿後、ドイツで1日宿泊しその後、選手権の10日前からポーランドで合宿を行った。その間の選手の状態としては、最も多かったのが下肢疾患であり、次いで肩・腰疾患であった。これらの障害を重複している選手も多く、マッサージ及びストレッチを宿舎・体育館で入念に行った。テーピングは、3月に膝の手術を施行したH選手と肩関節亜脱臼を既往に持つM選手には常時行い、その他練習・試合中での足関節捻挫や、腕や指を“もっていかれた”状態になって痛みを訴えた選手らにも施行した。遠征期間中に使用したテーピングは別紙の通りである。

この期間、毎日のケアの中で一番の問題となったのはアイシング用の氷であった。選手権前なので本部も設置されておらず、この間の氷は現地役員の協力により近くのホテルにて準備していただいた。またこの間環境の変化による発熱や便秘なども多くの選手にみられたため、当院の医師に連絡を取り、内服薬の処方をしていただいた。選手権開催2日前より医師（当院　沖本信和医師）が合流され、メディカルチェックの内容と現在の状況を説明し、再度メディカルチェックを行っていただいた。それ以後は毎朝・練習後のトレーナーサイドでのメディカルチェック時に問題のあった選手らを、監督・医師に必ず報告し、必要があれ

表1　トレーナー活動集計表

項目	内　容	件数
対象部位	頭部・顔面	2
	頸部	1
	肩・鎖骨	3
	上腕	2
	肘	1
	前腕	0
	手	1
	手指	3
	背部	2
	胸部	0
	腰部	2
	臀部	1
	股	2
	大腿	3
	膝	1
	下腿	2
	足	4
	足趾	1
	その他	0
種　類	捻挫	4
	打撲	14
	骨折	0
	脱臼	0
	筋断裂	0
	腱断裂	0
	肉離れ	0
	擦過傷	1
	刺切創	0
	その他	0

項目	内　容	件数
治療目的	鎮痛	28
	疲労回復	15
	リラクゼーション	15
	筋力増強	0
	可動域改善	2
	安静固定	2
	消毒	0
	止血	0
	その他	0
治療内容	アイシング	234
	テーピング	108
	弾性包帯	18
	簡易装具	5
	マッサージ	108
	ストレッチング	108
	マニュアルセラピー	0
	ホットパック	0
	足底板	0
	超音波	0
	低周波	0
	水治療	0
	その他	0
対処場所	現場	10
	宿舎	19
	医療機関	1

表2　テーピング使用品名

分類	使　用　品　名	使用数(本)
テープ	アンダーラップ	5
	サルバチオEB(H)-50	62
	〃　EB-50	54
	〃　EB-75	24
	ニチバンC-38	5
	ニチバンC-50	5
	ニチバンC-19	2
	キネックス50	4
器材	コールドスプレー	2
	粘着スプレー	2
	リムーバースプレー	4
包帯	弾性包帯	5
外用	モーラス	240
	インテバンクリーム	3
	シッカロール	1

ば診察していただくという形を取った。

選手権期間中でも問題となったのはアイシング用の氷であった。本部には少量のアイスパックしか用意されておらず、期間中は選手らの部屋で氷を作ってもらい、それを使用した。

また、３戦目にＯ選手が右足関節を捻挫し（II度の損傷)、医師と共に現地の病院を受診した。Ｘ－Ｐの結果骨折はなかったものの腫脹がありシーネ固定となったためそれ以後の試合参加は不可能であった。その他の選手も大きな傷害はなかったものの試合中の打撲や、疲労が蓄積したため、宿舎に帰ってからのケアも日を追うごとに増えていった。

テーピングや薬などは、はじめから多めに用意していたことと、選手自身が自分の使用分を持参していたこともあり不足することはなかった。

期間中はスタッフの方々、現地ボランティアの協力によりメディカルスタッフとしてはスムーズに仕事を行えた。だが、私自身の反省として、監督やコーチの方々ともっと密に連絡を取り選手の情報を詳しく伝えなければならなかったことが挙げられる。このことは今後の自分の課題として取り組んでいきたい。

最後になりましたが、日本協会、久保団長、水上監督、池田コーチ、笹倉コーチ、池ノ上コーチ、通訳の櫻木さん、沖本医師、そして現地スタッフ、ボランティアの方々のご協力を頂き、大変心強いものがありました。心より感謝致します。また、今回の遠征は私にとって初の海外遠征であり、至らない点も多々あったと思いますが、今後改善できるように努力していきます。

大変貴重な経験をたくさん得ることのできたこの遠征に参加する機会を与えられ、とてもうれしく思います。今後またこのような機会があれば、是非参加させていただきたいと思います。有り難うございました。

② 日韓親善ハンドボール交流大会（全日本男子U―16）

● 酒井　薫（おかもと整形外科クリニック）

はじめに

1998年８月23日から29日までハンドボールＵ―16韓国遠征がソウル市で開催された。今遠征は、低年層の選手育成と競技力向上を目的とし、前年度のJOCカップで選抜された強化選手15名により日韓の親善試合が行われた。

また、スタッフは監督１名、コーチ２名、医師１名、トレーナー１名で編成された。

今回は男子チームの帯同であったが、女子チームに医師、トレーナーの帯同がなかった為、急遽両チームの管理を行うことになった。

この７日間における遠征期間中のチームトレーナーとしての活動内容を報告する。

２）トレーナー室の環境

医療室及びトレーナー室は、トレーナーの私室を一人部屋から二人部屋に変更して対応した。ベット２台、椅子３台、冷蔵庫１台、治療用の氷はホテルのレストランの製氷機から調達した。

３）メディカルチェック問診表

今回の遠征において選手全員に対してメディカルチェック問診表を記入してもらった。

問診表の結果は以下のとおりである。

表3

	過去の外傷	現在の外傷
足関節捻挫	6件	2件
剥離骨折	1	0
第4趾複雑骨折	1	0
膝関節捻挫	1	0
膝半月板損傷	1	1
腰痛	7	4
椎間板ヘルニア	1	1
腰椎分離症	1	1
鎖骨骨折	2	0
下痢	1	3
風邪	2	1

上表現在のテーピング、サポーター、ブレースの使用状況

テーピング	足関節	2件
	膝関節	2件
	腰痛	1件
サポーター	使用なし	
ブレース	足関節	5件

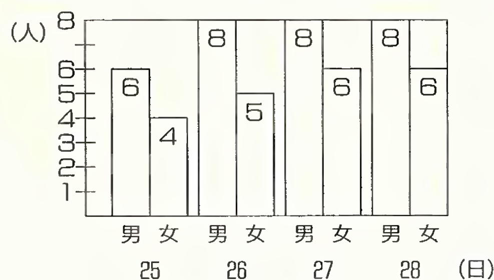
表4　現地のでトレーナー活動　1日のスケジュール

6：30	起床
7：00	テーピング処置（女子）
7：30	朝食
8：00	テーピング処置（男子）
8：45	ホテル出発
9：00	ストレッチ
9：30	練習開始
12：00	練習終了
13：00	昼食
14：00	ストレッチ
14：30	練習開始
17：00	練習終了（アイシング）
18：00	夕食
20：45	ホテル到着
21：00	治療開始
22：30	就寝
23：00	医師とミーティング

過去・現在に至って大きな外傷がない選手は３名のみであった。足関節については現在も不安が残るものに対してテーピングやブレースの使用があったが、テーピングについて巻き方が不十分であったので選手の意見をとりいれて巻き方を指導した。

また、一人二カ所以上外傷がある選手が７名もおり受傷後の適切なケアもなされないまま現場復帰していた。

表5　A）トレーナールーム日別利用状況



B）治療内容について

		処置回数合計
急性外傷の処置	2件	10
後遺症の処置	5件	26
疲労回復の処置	3件	15

表6　治療内容について

外傷名	件数	外傷に対する処置	経過
足関節捻挫	4件	アイシング・テーピング	ゲーム出場
長母趾伸筋炎	2件	アイシング・テーピング	ゲーム出場
膝関節捻挫	1件	受傷直後・RICE処置 アイシング	ゲーム不可
	1件	アイシング・テーピング	ゲーム出場
膝半月板損傷	1件	アイシング 別メニュートレーニング	ゲーム不可
疲労性腰痛症	3件	アイシング・マッサージ ストレッチ	ゲーム出場
腰椎椎間板 ヘルニア	1件	マッサージ （背部、腰部、大腿部解緊目的）	ゲーム出場
右肩腱板損傷	1件	ストレッチ・外旋トレーニング （1kg重りを使用）アイシング	ゲーム出場

右膝半月板損傷の選手が一名おり、期間中練習不参加であった為、以下のようなメニューの筋力トレーニングを実施した。

足関節	底屈	徒手抵抗	20回×3Set
	背屈	徒手抵抗	20回×3Set
腹筋			10回×3Set
背筋			10回×3Set
腕立て伏せ			10回×3Set
腱板トレーニング		外旋	20回×3Set
		内旋	20回×3Set

1）選手のコンディションニング意識について

遠征期間中の運動内容はランニング・軽いストレッチ・実練習が主となって構成されていた。練習前はストレッチ・ウォームアップ等は行われていたが、練習後は行われていなかった。

最初ストレッチ等の意識が浅く行動に移す選手が少なかったが、その重要性を説明すると選手も理解を示し積極的に取り組むようになった。学校には専属のドクター、トレーナーが存在せず指導者が全てを管理するので、まずは指導者がコンディショニングの重要性を理解し選手に指導することが大切である。それと同様に選手も積極的に知識を深めていくことがこれからの選手生活における重要なポイントになると思われる。

2）食事について

今回の遠征について食事は昼・夕食は外食であった為、肉料理と辛いものに偏り食欲不振や便秘になる選手がいた。海外でのことなので日本と同様とはいかないが、事前に食事のメニューに配慮するなどスタッフでできる範囲での工夫ができたのではないかと思われる。

3）スタッフ間の連絡方法について

スタッフ間の連絡については一日の業務終了後、医師とミーティングを行い朝食時に監督に報告する形となった。またバスで移動中の時間を利用して意見を交換した。

まとめ；

今回の海外遠征において帯同医師・スタッフの協力もあり無事トレーナー活動が行えたとおもう。

しかし16才以下の選手でも外傷の後遺症を有して競技を継続しており選手に対する医療サポート、また指導者の外傷に対する認識が十分とはいえない。この現状から今後指導者及び選手が積極的に外傷やコンディショニングについて知識向上していく必要がある。山本チームドクターの適切なアドバイスに感謝する。



日韓親善ハンドボール交流大会

（全日本女子U－16）

●今井秀登（S．プロダクション）

（平成10年8月11日から8月16日まで横浜平沼記念体育館）

昨年に続き今年もこの大会に参加させて頂きありがとうございました。2度目と言う事で今回はスムーズにトレーナー活動が出来ました。

活動内容と致しましては、練習前のテーピング、練習後のアイシングを午前・午後の2回実施致しました。又、監督・選手・ドクターとのパイプ役として各立場の意思を伝えました。今回の期間中大きな怪我は幸いありませんでした。トレーナー利用者（テーピング実施）は8名で、選手16名に対しトレーナー利用（テーピング実施）率は50%でした。トレーナーの延べ利用者は42名で選手1人あたりの利用回数は5.3回でした。

テーピングの部位別としては、足関節4名(50%)、膝関節1名（12.5%)、肩関節1名（12.5%)、腓腹筋1名（12.5%)、突き指1名（12.5%）でした。アイシングに関しては、午前・午後の練習終了後の2回16名分のアイスパックを用意し各自移動のバスの中でアイシングを実施しました（午前は練習終了後ホテルにて昼食の為、バスで移動、午後は練習終了後ホテルに移動の為)。

以上の活動内容で、選手をサポート致しました。今回の選手は怪我に対して慎重であった様に思います。ただ選手との話の中で、各自学校に戻ってからのコンディショニングの在り方やトレーニング方法、怪我や障害に対しての処置のしかたテーピング方法など正しい知識や指導者が必要と思いました。又、今回のトレーナー活動では、ほとんどがテーピングであったのにテーピングテープなどが用意されてなく自前のテーピングセットで対応致しました。出来ましたら今後、協会の方で用意して頂けたらと思います。宜しくお願い致します。

次回も是非参加したいと思いますので宜しくお願い致します。

ショー・コスギ氏を迎えて広島県ハンドボールフェスティバル開催

広島県ハンドボール協会　副理事長　山本　一

今年で4回目となる広島県ハンドボールフェスティバルを1月30日(土)、日本ハンドボールリーグの行われた広島市東区スポーツセンターで開催しました。

主催は広島県ハンドボール協会、協賛は株式会社イズミと山陽コカコーラボトリング株式会社の二社で、特に山陽コカコーラボトリング株式会社さんには、大変お世話になりました。

内容は、

1．日本ハンドボールリーグ1部女子
　イズミ対シャトレーゼ戦
2．ハンドボール教室
3．エキシビジョンマッチ
4．ストラックゴール
　きみはパーフェクトが達成できる!?
5．クイズ勝つのはどっち？
　です。

今回のゲストには、映画俳優のショー・コスギ氏（50才）を迎えました。ご存じの通り、ショー・コスギ氏は空手、合気道、剣道、忍術、柔道、テコンドーなどあらゆる武道の奥義を極め、いろいろなチャンピオンになり、またハリウッドや日本の映画・TVなど第一線で活躍しているアクションスターです。また、著書に「ニンジャ式人生必勝法」など多岐にわたるマルチタレントとしても有名です。ご子息のケイン・コスギ氏もスポーツトライアル番組やドラマに出演し活躍しています。

当日は、当初危ぶまれた天候も回復し、ぽかぽかと春の陽気のする1日でした。日本リーグの始まる1時間前、午後2時の開場でしたが午後1時過ぎには早くもお客様が来られるという盛況でした。

放送席には司会にハンドボールの試合実況でおなじみのユミ・ガットシーさん、中国放送スポーツアナウンサーの道盛浩さん、ハンドボール解説者として元全日本ナショナルチームコーチの酒巻清治さん、ゲストのショー・コスギ氏と多彩なメンバーが揃っていました。

試合開始前からハンドボールについての説明やいろいろなエピソードを交えたトークショーで観客のみなさんをハンドボールの世界に引き込みました。

フェスティバルは場内でのトークショーに引き続き、主催者の山下泉広島県ハンドボール協会会長（日本リーグ運営委員長)、協賛社を代表しての山西泰明イズミ社長の挨拶で始まりました。ゲーム前にはユミ・ガットシーさんの英語を交えた元気の良い両チームの役員、選手紹介とともに入場したイズミ、シャトレーゼの両チームがサインボールを観客席に投げ入れ、試合開始となりました。

ゲームは司会のユミ・ガットシーさんと道盛アナウンサーの進行の内にショー・コスギ氏、酒巻清治氏の解説で英語、日本語の入り交じった音響効果で試合を盛り上げました。

試合は日本リーグ首位でプレーオフ出場に向けてエンジン全開といったイズミと現在最下位ながら惜しい試合の続くシャトレーゼ戦でした。前半戦はイズミ林五卿監督兼選手が前節の試合で右手薬指じん帯切断というケガをおしての出場で、押さえが効かないのか持前のパス、シュートに微妙な狂いが生じ、なかなか調子が出ず、一進一退のゲームとなり、観衆を湧せました。

後半に入ると、イズミも気合いを入れ直し、着々と加点した結果、30—24でイズミの勝利でした。尚、この試合で林選手は日本リーグ通算300得点を記録した。

この試合のハーフタイムにはハンドボール教室と銘打ち、現在鯉城クラブに所属しているがかつての名選手、井藤英忠氏（GK、元全日本・湧永製薬)、玉村健次氏（CP、同)、日野栄二氏(CP、日新製鋼)、森信二氏(同)、一瀬悟氏（同)、東政樹氏（同)、沖本信和氏（CP、現全日本チームドクター)、堀越健太郎氏(CP、鯉城クラブ)による各種シュート、反則技のあれこれを披露しました。

日本リーグのゲーム終了後、ショー・コスギ氏を中心にイズミ、シャトレーゼの選手と共に一般参加者を加えたゲストチーム7人対鯉城クラブの5人のミニゲームを10分ハーフで行いました。



◀ショーコスギ氏の華麗なシュート

ショー・コスギ氏は、学生時代にハンドボールを少しやっていたというだけあってミニゲームでの体のこなしは流石なものでした。

続いて、ハンドボールゴールを9カ所（一辺50cmの正方形）に区切った的（まと）にボールを的中させるストラックゴールゲームを行いました。

ショー・コスギ氏やシャトレーゼ、イズミの選手一般客が参加して、一喜一憂して楽しい時間を過ごしました。日頃ハンドボールを握っているイズミの選手もなかなか的に当たらず苦労していました。

最後に山陽コカコーラボトリング株式会社からの多数の景品の当たるお楽しみ抽選会をしてフェスティバルの幕を閉じました。

協会だより

■平成11年1月　常務理事会

日　時　1月23日（土）　13時～17時
場　所　日本青年館 303号
出席者　市原専務理事、常務理事8名、監事1名、事務局2名

1. 平成11年度部門別事業計画について

平成11年度予算編成にあたり、日本協会の財政状況を検討し、各事業部門の政策について担当常務理事より報告があった。特にシドニーオリンピックアジア予選日本開催による活動計画及び来年度より実施の登録新会員制度他、各種大会の活性化等を挙げ、基本方針、重点施策にまとめ報告。

2. 平成11年度事業予算について

一般会計予算案について検討。

特別会計予算について、各行事別予算案を次回審議する。

3. 職員就業規則改定について

現行の就業規則改定の提案。3件について承認。1件については細部を検討することとなった。

4. 新会員登録制度について

審判登録について、必要経費として300円を都道府県協会に還元する。

選手証を登録証に改める。

役員の重複登録における登録金の納入方法について、見解を統一。

5. 競技運営本部関連事項について

平成11年度登録規程改正案を承認。

懲罰規程改定案を承認。

平成11年度全日本総合選手権大会要項案を承認。

全国クラブ選手権東地区大会参加チーム数について承認。

平成10年度全国大会、国際大会開催の協会に感謝状の授与について検討することとした。

平成13年度全日本総合選手権大会について、企画書の提出を依頼することとした。

平成10年度全日本総合での、口頭注意について報告。

富山国体から、チームの監督は公認指導者であることが望ましいとの報告。

秋田ワールドゲームズ2001第2回競技代表者会議報告。

ビーチハンドボール普及についての打ち合わせ会報告。

10年度第2回学校体育ハンドボール検討委員会報告。

6. 強化事業本部関連事項

平成10年度第2回日本リーグ常任委員会報告。

蒲生監督の辞任承認、GM制度採用を承認。

ドーピングコントロール実施について検討、承認。

第15回男子世界学生選手権大会予選報告。

第7回JOCジュニアオリンピックカップ報告。

男子ナショナルチーム大会報告。

7. その他

故荒川氏、清水氏からの礼金の使途について、ハンドボール育英基金の経理科目を設けることとした。

■平成11年2月　常務理事会

日　時　2月6日（土）　10時～12時
場　所　青山メトロ会館
出席者　市原専務理事、常務理事9名、監事1名、事務局3名

1. 新会員登録制度について

審判登録に関して、D級の登録金除外の意見に対して、再度主旨を伝え納入を依頼することとした。

「がんばれハンドボール10万人会」について、加盟団体へ数値目標を示し、協力の依頼をすること、募集経費として1件につき500円を還元すること、会員・登録期間は4月1日から翌年3月31日とすること、特典についてこれを承認した。

関東ブロック、中国ブロックからの質問に対して回答がなされ、これを承認。

チーム役員の登録について、チーム役員登録用紙のチーム役員欄で登録することを確認。

執行部全員で協会の姿勢を明確にして、都道府県協会、ブロック協会等の会合に積極的に参加し、説明するなど推進していくことを申し合わせた。

2. 平成11年度事業予算（案）について

1月常務理事会より継続事項について審議。重点施策の執行については、優先度の高いものは積極投資をしていくとの見解があった。

1）一般会計収入の部：項目「登録金」の内容について、修正を確認した。

2）支出の部：ビーチハンドボール全国大会開催に伴う費用を、一次補正で計上する。ワールドゲームズの大会予算を策定し、2年間にわたり積立金を計上することで承認。特別会計について、委託金等の推定収入で計上、金額確定後に補正することで承認。

3. 平成10年度日本協会表彰について

加盟団体よりの推薦者について検討、既表彰者、及び規程に該当しない推薦者を除き承認。

4. その他

2001年男子世界選手権東アジア予選の2000年9月、10月の日本開催をAHFに申請することを確認。

報告事項

1. シドニーオリンピックアジア予選について、開催時期について2000年1月24日より31日までの合意がとれたことを報告。

2. 株式会社サンクスの協賛について報告。

平成11年度関東学生春季リーグ戦日程（男女とも1部のみ）

■4月17日/駒沢屋内球技場
［女子］東女大×日体大／茨城大×日女体／筑波大×国士舘
［男子］中央大×早稲田／日本大×国士舘／日体大×東海大／筑波大×順天堂
■4月18日/東京女子体育大学体育館
［女子］筑波大×国士舘／東女体×日体大／茨城大×日女体
■4月22日/駒沢屋内球技場
［男子］中央大×国士舘／筑波大×東海大／日体大×順天堂／日本大×早稲田
■4月24日/早稲田大学東伏見スポーツアリーナ
［男子］日本大×順天堂／日体大×早稲田／筑波大×国士舘／中央大×東海大
■4月24日/国士舘大学多摩校舎体育館
［女子］茨城大×日体大／東女体×国士舘／筑波大×日女体
■4月25日/国士舘大学多摩校舎体育館
［女子］筑波大×日女体／茨城大×日体大／東女体×国士舘
■4月29日/土浦市水郷体育館
［男子］中央大×順天堂／筑波大×早稲田／日本大×東海大／日体大×国士舘
■5月2日/東京女子体育大学体育館
［女子］日女体×国士舘／筑波大×日体大／茨城大×東女体
■5月4日/草加市スポーツ健康都市記念体育館
［男子］国士舘×東海大／早稲田×順天堂／日体大×日本大／筑波大×中央大
［女子］日女体×国士舘／筑波大×日体大／茨城大×東女体
■5月8日/市川市塩浜体育館
［男子］早稲田×東海大／国士舘×順天堂／筑波大×日本大／日体大×中央大
■5月8日/日本女子体育大学体育館
［女子］日体大×日女体／茨城大×国士舘／筑波大×東女体
■5月9日/日本体育大学健志台体育館
［女子］茨城大×国士舘／日体大×日女体／筑波大×東女体
■5月14日/駒沢屋内球技場
［男子］順天堂×東海大／早稲田×国士舘／日本大×中央大／筑波大×日体大
■5月15日/国士舘大学多摩校舎体育館
［女子］日体大×国士舘／東女体×日女体／筑波大×茨城大
■5月16日/日本女子体育大学体育館
［女子］日体大×国士舘／東女体×日女体／筑波大×茨城大

※前号のお詫びと訂正

3月号の30頁「日本協会の販売品のご紹介」のコーナーで、［競技用品］の3「チームタイムアウトスタンド」を2個組で3500円と紹介しましたが、1個で3500円の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

HANDBALL CONTENTS APRIL



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三九五号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成十一年三月二十六日印刷 平成十一年四月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 市原則之

価格は登録金に含む